

vol.37

H.26 9.1 (2014)

白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

<http://www.h6.dion.ne.jp/~kanchu/>

東京白楊だより

『忘れてはならない年』 校長 千原 治

第37回親睦大会報告

同期会だより

第52期玄羊会 第55期ニッパチ会 第61期 第63期午未の会
第67期志丸会 第68期よいよい会 第71期 第72期さつき会
第74期フエックス会 第79期七草会 第80期末広会

随想

『追悼—福津さんのエッセイのこと』 第71期 加納元雄
『前略キヤング殿 お世話になりました。』
『ガミさんと檀家廻り』 第52期 福津達男
『函館市の人口について』 第76期 高野 勝弘
『W・CUPブラジル大会を巡る旅』 第73期 山田 朗

ゴルフコンペべし報告



皆様におかれましては、お変わりなくお元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年の梅雨シーズンをみますと、全国各地で雨の降り方が、しとしとはなく、ゲリラ豪雨的でまるで亜熱帯のスクールの様な感がありますが、これも温暖化のせいなのでしょうか。

一抹の不安を感じさせる今日このごろです。会員の皆様には被害が無かったと祈念しております。このような中、無事、親睦大会を開催出来る事となり、ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

今年度は84期（S57年卒）が幹事期となり、昨年より約1か月遅く、11月8日（土）に昨年と同じ「グランドアーク半蔵門」での開催となりました。

「函館」をモチーフに今までにない、いろんな取り組みを企画し、講演会もありますので、是非、多くの方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

東京支部も40年近くたち、設立当初の勢いもだんだん薄れ、高齢化が進み、会員数（年会費納入者）の減少等様々な課題が多いなかではありますが、今年度も運営体制の刷新、活動内容の革新を若い方の力を借りながら進めてまいりたいと思っております。

昨年に引き続き、会報を全ページカラー化し、より読みやすい内容にしております。

ホームページも昨年タブレット端末（スマートフォン、iPadなど）で閲覧を可能にするためにソフトウェアを変更しましたが、さらに利用しやすくするためにサーバーも変更しました。

また、フェイスブックを通じ支部の活動をより多くの方々に知ってもらい、同窓会に関心を持つ人を増やしていきたいと思っております。その指標はフェイスブックの「いいね」で確認することが出来ますのでご利用ください。

以前より申し上げておりますが、同窓会は年会費で運営されております。このことをもっとアピールしながら、会報を通じ同窓会の楽しさを広め、若い方の参加者が一人でも多く、又ご年配の方々にも楽しめる同窓会を目指し盛り上げていける様、役員一同なお一層発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

白楊ヶ丘同窓会東京支部長



安田康次

67期 昭和40年卒

「忘れてはならない年」

北海道函館中部高等学校

校長 千原 治



8月11日午後、私はこの原稿を書いています。西日本を横断し、全国的に大きな被害をもたらした台風11号の影響で、函館では夜来の風雨がありました。そして今も尚、北海道中で強風が吹き荒れています。校庭にはポプラの葉がたぐさん散っています。その葉の形を見ながら、本校の校章を思い浮かべました。二枚のポプラの葉を左右に配し、中央に「函高」の文字を置くものです。この校章は昭和23年度に校歌とともに新しく制定されたもので、当時の本校の名称は北海道立函館高等学校でした。

明治28年の函館尋常中学校の開校以来、本校は歴史を重ねて来年度には120周年を迎えます。それに向けて白楊ヶ丘同窓会、PTA、学校が手を携えて協賛会を設立し、平成27年10月17日(土)に記念式典及び祝賀会を開催することを決め、着々と準備を進めております。白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様にも多大なるご支援とご協力をお願いしなければなりません。どうかよろしくお願い申し上げます。

遷の歴史や出来事やドラマがあつたことは言うまでもありません。今日はその中から、戦後の学制改革による学校の移り変わりについて述べてみたいと思います。と言いますのも、戦後69年の今年、私を含めてこの時代のことを知らない者が大半を占めるようになりまして、その時代に生きた人々が少なくなるにつれ歴史が風化していくという現実があります。そのことは、ある意味では止むを得ないことではあります。それらを極力少なくしようとするのが大切であると思います。

昭和22年の学制改革により、義務教育が従来の小学校6年に新制中学校3年を加えた9年間となりました。それにともない、中学校・高等学校の姿が根本から改められました。学校というところは学年を追って進んでいく所ですので、制度が変わつたらすぐにその制度にあわせた体制になる訳ではありません。学校は年とともに変わっていきます。図①はその間の状況を図示したものです。函館中学校が函館中部高等学校になつていく大まかな流れをつかむために簡単な図にしましたが、実情はもっともつと複雑だつたものと思います。この頃の本校の生徒や教師の様子を

叙した名文を紹介いたします。筆者は近藤潤一先生(昭和5年度生まれ、本校51期、故人)です。近藤先生は北海道文学部教授として中古・中世の文学研究に多大な業績を上げられるとともに、俳人としても北海道俳壇の指導的な役割を果たされました。実は、私は近藤先生の教え子です。尊敬する近藤先生の母校に勤務できる喜びを感じている次第です。出典は、「創立八十周年記念誌 白楊魂」の中の「私たちの一年間」新制高校出発のころ」と題する文章です。

「私達は、卒業式を二度挙げてもらった。一度は函館中学最後の卒業生として、もう一度は、函館高校最初の卒業生として。萱屋根の校舎に、私達は、六年間通学した。その中で、二度の卒業式にはさまれた一年間が、生涯を通して最も楽しい時間の花束になつていく。あの、やがて大いそぎで忘れられた、喪われた季節のような一年の歳月ほど、私をひどく感傷的にさせるものはない。この一年をともに過ごした友人達は、学年の生徒数としては、ずいぶん少なかった。旧制中学の常で、聡明早熟な級友諸君は四年終了で進学し、翌年は、上級学校を志望した多くの友人が、五年卒業で、各地の学校へ散つていった。なんだか毛並のいい純血種の「函中生」がこつと抜けて、のんきで、しかも奇妙に母校を離れたくない、そのくせとどりに個性的な友人達だけが残つた。歴史を閉じた旧制中学の残党のように、したがつてまた、祖

国に殉ずる華々しい戦死からも取り残された少年党のように、私達は闇市の上にひろがる青空を仰ぎながら、教室に集まつてくるのだつた。掌をかえたような学校の民主化も、もう憤るべき偽善ではなく、むさぼるべき解放だつた。先生方だつて、この頃は蘇生したように見えた。もともと開化的な函館の気風も生きていたし、高校一年目は、後になればお先走りと言われても仕方のないほど、大胆で自由な教科課程を編み出して、文科系の教科の授業は、それぞれ先生方御専攻のテーマで、ノート講義が始まるといふおもしろさであつた。(後略)

近藤先生は「あの、やがて大いそぎで忘れられた、喪われた季節のような一年」と書いておられますが、私達は決して忘れてはならないのです。今があるのは、これまでの歴史があるからであるという真実に謙虚になり、「過去を忘れない、そして未来を見つめる」ということが今を生きる者に課せられた使命であると考えます。120周年という節目の年にあたり、私はこのことを生徒達にも語りかけたいと思つていきます。



図① 新学制(昭和22年4月1日以降)前後の状況

	昭和21年度	昭和22年度	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度
昭和9年度生まれ(55期)	国民学校6年(義)	中学1年(義)	中学2年(義)	中学3年(義) 卒業	函館中部高校1年	函館中部高校2年
昭和8年度生まれ(54期)	高等科1年	中学2年	中学3年 卒業	函館高校1年	函館中部高校2年	函館中部高校3年 卒業
	函館中学校1年	函中併置中2年	函中併置中3年 卒業			
昭和7年度生まれ(53期)	高等科2年	中学3年 卒業	函館高校1年	函館高校2年	函館中部高校3年 卒業	
	函館中学校2年	函中併置中3年 卒業				
昭和6年度生まれ(52期)	函館中学校3年	函館中学校4年	函館高校2年	函館高校3年 卒業		
昭和5年度生まれ(51期)	函館中学校4年	函館中学校5年 卒業	函館高校3年 卒業			
昭和4年度生まれ(50期)	函館中学校5年 卒業					

新制度による学校
旧制度による学校
卒業：無試験による進学・進級
卒業：選抜による進学・進級
(義)：義務制





第37回

白楊ヶ丘同窓会 東京支部

親睦大会報告

テーマは
「旧交を温め、楽しい時間を!!」

第37回の東京支部親睦大会は、平成25年10月12日(土)午後1時より、グランドアーク半蔵門にて開催されました。



今大会の幹事は83期。久しぶりに集う仲間とゆつくり歓談を楽しめるように、との思いから「旧交を温め、楽しい時間を!!」というテーマで企画をたてていきました。

今回は、乾杯までの司会を事務局に依頼し、78期の岡部あさ子氏が担当、それ以外は幹事83期の和多田麻美氏・坂内勇人氏が受け持ちました。平成25年の10月は、季節はずれの台風がいくつか関東に上陸をしており、幹事をヒヤヒヤさせましたが、その間隙を縫って無事に親睦大会を開催することができました。主催者代表の挨拶で白楊ヶ丘同窓会東京支部長の安田康次氏が「好天に恵まれ暑い中をお集まりいただき…」と述べ

たほど、天気が良く10月にしては暑い一日でした。さらに安田支部長より、支部長を続投されること、幹事への労いの言葉をいただきました。乾杯の前には、78期の島津路郎氏によるピアノ伴奏、105期の小林秀輝氏の歌唱リードにより、同窓会歌の斉唱を行ないました。壇上上がった旧制中学卒業の皆様による力強い歌声が、会場いっぱいに響きました。



その後、13名の来賓の方々を代表されて、函館中部高校校長の千原治様と函館市観光コンベンション部次長の伊与部隆様より、お言葉をいただきました。千原治様は「函館の街を知りたいので自転車ですべて回りたい。函館は「多様性のある街と感じている。中部高校の生徒は自己アイデンティティが確立しており、日本のみならず国際的に活躍していくであろうと思われる。ポプラ魂とは何かを各々考えているようだ。今までスポーツ面で良い結果を出してきた。これからますます

ます勉学・進学面で結果を出していくように教師たちと一緒に頑張っていくたい」と述べられました。

伊与部隆様は「函館の観光客の数は450万人で震災前の状態に戻りつつある。東南アジア諸国からの観光客増加が著しい。いよいよ新幹線が函館にやってくる。東京〜函館は約4時間で結ばれ、観光業の転機となる。北海道新幹線を活用し、東京オリンピック開催もあり、函館を本州にもアピールしていく。函館市の発展のためには函館中部高校同窓の皆様のご協力が不可欠。ぜひお力添えを」とのお言葉でした。また、実は中部高校卒業で、翌年の幹事の84期だというサプライズなお話もされました。



石井直樹氏の発声で乾杯！

白楊ヶ丘同窓会会長の石井直樹氏の乾杯の発声は、現在の函館の状況（函館駅前の和光デパート・五稜郭旧ダイエーの再開発等）を語り、函館への愛情を強く感じるものでした。

「函館は次第に人口が減ってきている。中部高校を卒業し函館を離れている方々には、函館のためにもう一度戻ってきていただき、地域経済の活性化に

学んできた知識を活かして協力をお願いできたらと思っております。皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、乾杯とさせていただきます。乾杯！

歓談中には、78期の島津路郎氏のピアノの演奏と、83期の柴田成氏のギター演奏が行われ、会場を盛り上げました。



また、72期谷口雅典氏より、日本経済新聞の経済用語辞典の寄贈がありました。じゃんけんで当選者を決めました。

「とむやむくん」マジックショー

そしていよいよアトラクションが始まりました。今回のアトラクションには「マジックショー」とむやむくんによるマジックショーが行われました。プロのマジックショーは初めてということと、皆これから何が行われるのか、と固唾をのんで待っていると、登場し

たとむやむくんの仮面が一瞬のうちに変化！次々と変化するそのたびに、会場からは歓声と拍手が沸き起こりました。マジックの合間には、ものまねショーもあり、笑いと手拍子が起き、次から次へと繰り広げられるマジックに、会場は大盛り上がり。とても楽しい時間でした。



83期から84期へ

今回、幹事の83期は29名の参加。北海道からも数名の参加がありました。幹事を代表して藤井宏章氏の挨拶「私達83期は39歳の頃にそろそろまた集まろうということで、『北海道』という店で第1回の東京同期会を行いました。その後メンバーングリストでつながり、毎年人数の変動はありますが同期会を行なっており、とても仲の良い期です。慣れない幹事ということいろいろと至らない点もあったかとも思いますが、この人数に免じてご容赦いただきたいと存じます」。会場より温かい拍手をいただき、幹事一同、感謝感激でした。

今回の開催テーマ「旧交を温め、楽しい時間を！」の言葉通りに、幹事の83期は飲み会と称した話し合いを何度



か行い、旧交を温めていたのでした。そして今回の幹事84期代表江原みちな氏の挨拶「なかなか集まらない期力をし、なんとかこの会の開催だけはしていきたい」という謙虚な言葉に、会場より大きな拍手が起こりました。



校歌斉唱と三本締め

そして恒例の校歌斉唱。112期寺地諒氏の三本締めのあと、43期の神山茂郎氏より「かわいいうち後輩諸君、俺は昭和11年に入った90歳、俺より先にあの世にいったらだめぞー来年またここ

で元気に飲もうじゃないか！」との覇気溢れるお言葉があり、「オー」と応える声があちこちより沸き起こりました。

名残惜しげに解散する方々には、函館市役所からの案内や、83期輪島美哉子氏（函館のカフェ・ドリーミングのオーナー）作成の「さくらクッキー」の入ったお土産が手渡されました。また、会場ロビーでは画家として活躍中の79期地原麻恵氏の絵葉書も販売され、帰りがけにたくさんの方が足を止めていました。

天気にも恵まれ、役員の方々のご協力のもと、大会を無事に開催することができ、感謝しております。函館中部高校の同窓会の皆様は本当に心温かい。

これからも人との繋がりを大切にしていきたい、とあらためて強く感じました。ありがとうございました。

(83期 評議員 田口志保)



51期～55期



56期～59期



60期～62期



63期～64期



65期～67期



68期～69期



70期～72期



73期～79期



77期～79期



80期～82期



83期



84期～99期



100期～115期



ご来賓

第37回 親睦大会出席者一覧

平成25年10月12日(土) グランドアーク半蔵門

来 賓

函館中部高等学校 校長	千原治	函館西高等学校つじヶ丘同窓会東京支部 会長	佐々木太郎
函館市観光コンベンション部 次長	伊与部隆	函館東高等学校関東青雲同窓会 会長	新山春一
白楊ヶ丘同窓会 会長	石井直樹	函館東高等学校関東青雲同窓会 副会長	村田学
白楊ヶ丘同窓会札幌支部 支部長	荒川伸夫	東京函商同窓会 会長	汐谷進
白楊ヶ丘同窓会宮城支部 幹事	深澤道子	函館ラ・サール学園同窓会東京支部 副支部長・事務局	林完自
白楊ヶ丘同窓会関西支部 事務局長	山川泰宏	函館ラ・サール学園同窓会東京支部 副支部長	佐藤秀樹
函館西高等学校つじヶ丘同窓会東京支部 名誉会長	新谷義克		

40期 昭和13年卒	今井清	75期 昭和48年卒	吉川忠幸
43期 昭和16年卒	神山茂郎	76期 昭和49年卒	下國直人/白川正広/曾我正彦/ 高野勝弘/竹埜正敏/平井正夫/ 山森一一/高崎美也子(古谷)/ 竹埜しをり(泉)
47期 昭和20年卒	堀田善和	78期 昭和51年卒	垣坂清/島津路郎/下田真靖/ 長澤一徳/松田司/若山雅行/ 岡部あさ子(三浦)
51期 昭和23-24年卒	奥山和宏/小野寺吉彦/ 三國比左男/三谷瑞穂	79期 昭和52年卒	青木雅/樋口澄則/米田考(山崎)/ 地原麻恵
52期 昭和25年卒	井上稔/長島康	80期 昭和53年卒	齊藤聡
54期 昭和27年卒	松田守正	81期 昭和54年卒	松永久/木田信子(千葉)/ 常陸千尋(出町)
55期 昭和28年卒	阿部健/香西慧/北原徹/栗崎健一	82期 昭和55年卒	清水真/高橋以郎/廣田知朗
56期 昭和29年卒	加藤正秋/津田恭一	83期 昭和56年卒	遠藤高行/及川信幸/桐澤睦巳/ 坂内勇仁/柴田成/谷口直之/ 戸部英彦/坂東正樹/藤井宏章/ 松本建速/松山哲人/山本宏/ 川島眞美(中村)/加藤すみ子/ 唐澤恵(伊藤)/黒瀬恵子(小関)/ 鈴木徳美(葛西)/高見奈々子(菊地)/ 田口志保(新沼)/戸部久子(早藤)/ 中山美恵子(吉村)/半澤恵(村橋)/ 星さい紀(赤川)/南里博子(齊藤)/ 南波理恵(岡部)/和多田麻美/ 鯛川美和子(東)
57期 昭和30年卒	椎名三五/吉田精吾/川口千代 (大島)/小竹嘉子(滝田)	84期 昭和57年卒	江原みちな(吉沢)
58期 昭和31年卒	藤原正樹	87期 昭和60年卒	末永健
59期 昭和32年卒	笠原静雄/小林重行/真船昭	88期 昭和61年卒	中島美佳
60期 昭和33年卒	長正太郎/内藤尚/ 高橋留美子(三輪)	90期 昭和63年卒	笠島浩行/原一彰/石井清香(河合)
60期 昭和34年卒	大久保泰宏/加藤紀興/金子公彦/ 菊池紀邦/橋本正夫/松本允	93期 平成3年卒	駒井敏弥
62期 昭和35年卒	田村雅英	97期 平成7年卒	大川憲太郎/木村暁史
63期 昭和36年卒	小野武司/中村崇/依田洋次/ 渡辺信英/石崎篤子/ 土橋道子(山本)/橋本軸子(守谷)	99期 平成9年卒	朝緑高太
64期 昭和37年卒	北村尚一/佐々二郎/ 佐々木京子(中村)	105期 平成15年卒	小林秀輝
66期 昭和39年卒	吉井直樹	108期 平成18年卒	山本晃平/下山玲/三浦基子
67期 昭和40年卒	石橋信彦/加賀幸彦/相馬研二/ 高木隆弘/中川真/花海吉夫/ 松田幹夫/宮川憲司/安田康次	112期 平成22年卒	菅原瞭介/寺地諒/瀬戸ひとみ
68期 昭和41年卒	木戸正文/及能誠一/白崎淳一郎/ 内藤和明/大河原綾子(小沢)	114期 平成24年卒	泉琢也/中川倅成
69期 昭和42年卒	伊東英一/梅田五郎/奥野政博/ 渡辺敏正/梅田やよい(上野)/ 斎藤裕子(三上)		
71期 昭和44年卒	加納元雄/成田秀信/古川哲朗		
72期 昭和45年卒	加藤哲夫/神垣善一/小林繁治/ 谷口雅典/丹羽修/古旗邦夫/ 松本浩/村田秀樹/渡部敏雄/ 佐野香苗(小岡)		
73期 昭和46年卒	国枝孝義/森山耐介/山田朗/ 小野田和子(梅本)		

同期会だより



第52期 東京玄羊会 長島 康

当会の会員顔合わせは、年に2回新年会と納涼会であるが、今年も遅ればせながら、2月25日新年会として、銀座の「がんこ四丁目」店で行った。年々参加者も少なくなり、あまり期待していなかったが、遠路遙々大阪から樋口君、静岡から山下君、茨城から菊池君の3名が加わり、計12名の参加者で賑わった。

然し、いつも顔を見せていた福津君が昨年の暮から病に見舞われ、東京医大の病棟で治療中で残念ながら欠席したほか、昨秋10月に当地へ引越された岡川君も新年会を楽しみにしていたが、直前に足を怪我されて出席できなかった。さて、会は加藤君の司会で始まり、当会の代表である佐藤信君の挨拶・乾杯のあと、福津君の病状について医師の立場から詳細な説明があり、現在は非常に元気に治療を受けている旨の話があった。その後、小泉君から昨年9月に二上君の見舞いに行った模様について報告がなされた。

次いで各人から近況報告があったが、健康に関するものが多かった。やはり八十路を越えると、老化現象であちこち不調を訴える人が多くなってきた。その中にも止むを得ないと思われる。その中

で山下君から来年函館創立百二十周年を迎え、その記念行事が平成27年10月17日に行われる事が話された。我々も来年「ひつじの会」を行う事が予定されているので、それに合わせて実施するのがベターとの意見が出された。ほか、福津君が病床で書き記した吉岡時代の大金君との思い出、函中時代尊敬していた高橋光明君の事、そして二上君との飲み歩きの思い出を綴ったものを参加者全員に配布した。

終りは山下二郎君の一本締めにより閉会した。

追記、4月27日(日)これまで函中の同窓会はもとより、道南会、そして我々同期会に多大な貢献をしてきた福津達男君が忽然として他界された。本当に残念無念である。合掌(福津氏の遺稿は14頁随想に掲載)

第55期 ニッパチ会 栗崎健一

函中ニッパチ会60周年記念大会

昨年(平成25年)5月、卒業60年を記念して「東京ベイ有明ワシントンホテル」で全国大会を開催しました。

思えば昭和28年、函館市の中心部に位置する函館中部高校を巣立って以

来60年の歳月が流れました。

60年…この年月を改めて振り返ってみると、長かったような短かったような、そして又早かったような遅かったような、複雑な思いが脳裏を横切ります。この間、360名余の同期の桜が(不幸にして途中で挫折の方も少なくありませんが)幾多の山河を乗り越えてきた中で、此度こそ東京の地に37名参集する運びとなりました。

顧みれば、十年前の50周年記念大会(於・函館)には百数十名、5年前の55周年(同)には約50名の同期の仲間が旧交を暖めました。今回は更に減少の総勢37名。然しながらこの漸減は補充のきかない同期会の宿命とも言わべきもので致し方なく、というよりも寧ろ老化のため年毎に諸状況が悪化するなか、よくぞ諸兄弟の皆様にご参加いただけたものと、改めて深く感銘を受けております。

参加された方の中には、卒業以来初めての再会とのケースも少なからず、しかし顔を確かめ合えば60年の空白を一瞬に埋めて記憶の糸を手繰り寄せ、懐旧談に花を咲かせる情景そこかしこ…まさにこれぞ、同期の者同士でしか味わえない「特権」と言っても過言でないでしょう。これを機にまた旧交を復活し、残余の人生を有為に楽しむ一助とすることが出来れば幸いです。

今回の日程は、5月14日・貸切バスで新装成った東京駅をはしめ皇居・銀座・レインボープリッジ・お台場・新木場・築地等周遊後「東京スカイツリー」より都内外展望。夜はお台場の「ホテル日航東京(唐宮)」で前夜祭…参加者26名。

翌15日はワシントンホテルで記念大会開催…参加者37名、二次会参加者20名、最終日16日は、東京湾ランチクルーズ「シンフォニー2号」に乗船、参加者13名、人生百年の時代、今回の集いを「二期一会」とせず、また近ぢかお互い元気で相まみえましようかと、笑顔と握手でなごりを惜しみつつ散会しました。(次回の全国大会は、北海道新幹線開通の平成28年(函館)の予定です。)



短歌日乗

半世紀超えて相見し友の顔
握手交わせば滂沱の涙
ある時は無性に長く或る時は
瞬時に過ぎる時と言うもの
今一度逢いたきものと焦るるも
夢に消えゆく愛しき人ら



株式会社宮川憲司建築事務所
Environmental Planning & Design
http://www.k-miyakawa-arch.co.jp

第67期 昭和40年卒業(志丸会)

- スタジオ撮影/スクールアルバム/コンサート撮影
ポスター&カレンダー撮影及び作成/音楽CD作成



ご家族の歴史と共に歩んで93年(創業大正10年)
吉岡写真館(有)
〒040-0011 北海道函館市本町30-25
☎0138-52-0634(代) FAX:0138-55-9286



志丸会

東京支部
第67期 昭和40年卒業

第61期

金子公彦

今年、61期にとつて卒業55周年に当たる。50周年を期に全国的な同期会は一旦終了になっていたが、今回55周年ということで、函館で同期会開催の運びとなった。

本州から23名、道内から22名計45名の参加で旧交を温めることが出来た。7月10日、接近中の超大型台風を物ともせず、本州からの参加者でゴルフをする人は早朝出発し、無事函館空港に到着した。空港から車で10分程で行ける函館シーサイドカントリークラブで久々に北海道でのゴルフを楽しむ事が出来た。函館から3名、本州から11名の参加者で、4組でのコンペとなった。その夜は、思い思いに過ごし、翌11日昼間は自由行動。夕方から五稜郭タワーの2階にある「旬花」で同期会。終わってから、五稜郭築造150年記念公演、世界に誇れる函館野外劇を観賞。但し、本年は五稜郭の石垣が崩れた関係で、場所も堀の内側になり、規模も小さく、船も使えず、馬も使えず、大きな火や大砲・火縄銃も使えず等で、過去に比べてかなりの貧弱さを感じた。

翌日は自由行動で、お墓参りや先生・親類縁者・知人等を訪問する人、最近どうなっているか見ておきたい所を回る人、食べたいものを食べる人、温泉に入る人、買い物をする人それぞれ拘束というか束縛から解放された動物のように動き回ったようである(笑)。

私は、4名乗りのレンタカーを借りていたので、3名を乗せ、縄文化交流センターで北海道で唯一の国宝、国内最



大級の中空土偶を見学。その後、重曹泉と硫黄泉の2種類の温泉が楽しめるホテル「ひろめ荘」で心身共に癒した。空港へ向う途中中国の史跡に指定されている、約4,500年前の縄文時代中期の集落跡「大船遺跡」を見学。この遺跡の特徴は、住居の規模が極めて大きく、且つ、集落の密度が非常に高かったこと。一般的竪穴住居跡は深さ0.5m、長さ4~5mに対して大船遺跡では、深さ2.4m、長さ8~11mの大型住居であったとのこと。説明員の方から大変親切な説明で北朝鮮の山の噴火で、ここまで軽石が飛んで来たとか、説明書には無いことの多くを伺った。

東京支部の61期は、結構活動をしているよう感じた。2月上旬には61期の年次総会(決算報告、年間の行事計画等々を決める)春には散策の会、今年には浅草(街並・昼食(津軽三味線でお蕎麦)・浅草寺・伝宝院)隅田川下り(浜離宮)、8月には暑気払い。年末には忘年会。その年によつて異なるが、1泊2日のバス旅行等々。ゴルフに至っては、年2回春と秋に1年先輩の60期の方々と懇親ゴルフ会、我々61期だけのゴルフ会は、本年の実績と計画を入れると年間7回となる。更に、東京支部同窓会としてのゴルフ会「ポプラ会」、函館西校、函館東校と中部高校

の3校対抗親睦ゴルフ会「巴会」などがあり、各位のプライベートゴルフを入れると、この年齢で良くやるね!と自分でも言いたい位である。オリンピックまで後6年程、合言葉的に後6年は元気で居て、オリンピックを見たいねという会話も、もうあまり聴けなくなった。各自思い思いの過ごし方で楽しんでる様子である。次回卒業60周年記念同期会は何人集るであろうか。



大会については、昨年(2013年)札幌大会が7月7日(日)~8日(月)の1泊2日の予定で次のように行われました。参加者は57名の多数で、東京からは10数名、遠くは福岡市の鎌田君や三重県津市の橋本(旧姓守谷)さん等が参加しました。

7月7日(日)
12時40分札幌駅集合 美瑛へ
北西の丘展望公園・拓真館等見学。
宿泊は旭川空港近くの東神楽町「森の湯ホテル花神楽」ここで旧交を温める宴会が盛大に行われました。

7月8日(月)
この日は旭岳のロープウェイで昇り途中から山道を歩いて「大雪愛の鐘」で昭和38年若くしてこの山で遭難した同期の田中君に全員で黙祷を捧げ、その後富良野へ向かいファーム富田で満開のラベンダーを観賞し札幌へ戻りました。さらにこの夜別れがたい有志が集まつてお楽しみ会と称して飲み会をしました。

第63期 午末の会 依田洋次

63期では1年おきに札幌と東京を中心に交互に同期会の大会を開いています。また東京周辺の有志が毎年「上野の桜を観る会」を実施しています。さらに旅行好きの有志が毎年1回全国の観光地巡りを行っています。これらの会の詳細はホームページ「函中63期会」で紹介されています。63期会の最近2~3年の活動状況をお知らせします。

この大会を来年(2015年)は東京で開催しようとする有志が時々集まって計画を練っています。会場は東京及び近郊の最近できた新しい名所を中心に地方の人が特に興味を持てるような観光地を巡りながら旧交を温めるような計画をたてようと考えています。今のところ2015年5月21日(木)~22日(金)に実施する予定で、東京スカイツリーは是非コースに入りたいと考えています。同期の方は是非予定をして下さい。

株式会社イコー建設

一級建築士事務所

代表取締役 佐藤 一廣 (69期)

〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F
電話: 03 (3223) 0168(代) FAX: 03 (3223) 0658
mail: k-sato@f-rn.co.jp

よいよい会 (昭和41年卒業 第68期)

毎年1月と6月に例会をやっています。

1月: 第三土曜日
6月: 第一 or 第二週

お問い合わせ
木戸正文: mkidodes@docomo.ne.jp
大河原綾子: pharmacist-ayako@docomo.ne.jp
白崎淳一郎、及能誠一

次に東京および近郊に住んでいる同期生が毎年3月の最終土曜日から4月の第1土曜日に桜を観る会を開催しています。会場は毎年上野の「精養軒」でフランク料理を食べながら高校時代の話に花を咲かせています。会が終わったときに翌年の予約をするのでまたまた桜の満開がぴったり合う年もあるのですが、2〜3月の気候によっては遅れることがあります。しかし話がはずむとお花見はどこかへ跳んで行ってしまい、楽しかった思い出だけが記憶に残っています。

今年4月5日の土曜日に開催し参加者は26名でした。桜は満開でも楽しいお花見ができました。その様子を撮った写真をご覧ください。なお来年(2015年)は3月の最終土曜日の正午から開催する予定です。

さらに毎年有志が実施している旅行について紹介します。この会は最初関西に住んでいる同期生と合同の同期会を京都で行ったのが最初で関西から西の方面へ行くことが多かったのですが、集まったときに翌年の行き先を決めるのが恒例になっています。28回目の昨年(2013年)は弘前城の桜を観に行きました。例年ゴールデンウィークに満開になる桜なのですが、混雑を避けるためにそれより1週間後に計画したところ、たまたま寒い日が続いたことと満開の桜を青空の下で観賞することができ、弘前の街並みも散策することができました。その夜は大鰐温泉に宿泊し、翌日十和田湖から奥入瀬渓谷をめぐる、八甲田山の雪の壁を抜けて青森の三内丸山遺跡を見学して、東京から来た人は新幹線で、三重や福岡から来た人は航空機で帰路につきました。今年

(2014年)は29回目で11月14日(金)〜15日(土)に平泉の中尊寺、毛越寺を中心に花巻で宮沢賢治の足跡をたどる旅を予定していて、紅葉も楽しめるのではないかと期待しています。今のところ参加者は7名の予定です。中村崇君運転のジャンボレンタカーの中で旧交を温めることができ、楽しい旅になることと思っています。

以上集まる回数が多いのですが皆さん昔に帰ってとても楽しそうに会話を楽しんでいきます。これまで述べた会の様子はすべてホームページ「函中63期」に写真入りで詳しく紹介されていますので興味ある方は是非ご覧ください。



第67期 志丸会

原 一

今回、「東京白楊だより」に寄稿する機会を得て、思いつくままに函中卒業後を書きます。

その前に、同窓会活動には我関せずの私が、還暦志丸会(浅草で開催)の出席をきっかけに最近では同期から誘いがあれば参加し楽しい時間を過ごしています。これは、白楊ヶ丘同窓会東京支部役員の皆様が年会費減少にもかかわらず連絡を絶やさなかつたお蔭と感謝しお礼申し上げます。

〈周防大島に帰ったわけ〉

同期会に参加すると必ず「なぜ」瀬戸内海の島に転居したのかを質問されます。

私は、生まれてから高校まで函館で過ごした。父は大阪万博開催の年に退職して、出身地である周防大島に帰った。私は福島県の大学生活を送つた後、親元に近い方が何かと便利と大阪に就職を決めた。

将来周防大島に「帰るよ」と親から一言も言われていませんが、慶弔の行事や休みに帰って親類縁者と会いますので周防大島が田舎と思えるようになったこと。父母の死去後は私が家や墓の管理をしていたこと。さらに、「古い考えとお思いでしょうが」妹ばかりで跡を継がなければならなかつたのも一因です。しかし住めば都で長く住んでいた関西から退職後転居するのを躊躇したのも正直な気持ちでした。妻は大阪生まれで他の土地で暮らしたことがない女性ですが、周防大島への転居を承知してくれたことを感謝しています。(半強制的でしたが)

〈周防大島に帰ってからの近況〉

2008年5月に転居しました。当初は家の整理で気忙しい毎日でしたが

一段落してからは畑、釣り、ボランティアで過しています。畑と釣りは近所に師匠がたくさん居られ大変お世話になっています。

ボランティア活動は「美しい三浦を創る会」に参加している。御他間に漏れず、島も高齢化で休耕田が目立ち、海岸線や山裾のあちこちで竹藪が揺れ美しい景色を台無しにしています。

古里の変貌に心を痛めた三浦地区の有志25名が「車窓から海が見える、昔の古里の原風景をとりもどしたい」と



植樹



三浦地区

活動を開始しました。毎月2回の定例作業が基本ですが行事開催前は連日活動しています。今年竹藪伐採後の跡地で第7回植樹祭を開催しました。地元の小生やお世話になっている県の土木事務所の方々に参加して頂き、桜、椿等を植樹しました。満開の花の下で花見するのが楽しみです。

〈周防大島の自慢〉

周防大島は瀬戸内海では、淡路島、小豆島に次ぐ3番目に大きな島です。みかんの産地で大島みかんはブランドです。海では種々の魚が獲れますがやはり真鯛が一番美味しく、夏は広島近郊から釣り海水浴客で賑わいます。作詞家の故星野哲郎氏の出身地です。島の沖で原因不明で爆沈した戦艦陸奥の記念館もあります。

〈周防大島への客〉

周防大島に帰って嬉しいことがあった。2009年11月志丸会の12名が「友達を訪ねる旅行」の途中に寄つてくれた。島内のホテルに一泊宴会、楽しいひと時を過ごした。次の日、私の住む三浦でみかん狩りをした。現在、札幌、函館、東京、四国に住んでいるせいか初体験の人が多く楽しんでくれた。

皆には地元で、周防大島の良さや体験したことを、近所に伝え、周防大島の名を広めてくれることを期待している。

最後に、函館(生まれ)から始まり郡山(大学)、大阪(勤務)と流れ流れて瀬戸内海の周防大島を終の住まいとしたが、転居して後悔のないように過ごそうと思う。



みかん狩り

第68期 よいよい会 木戸正文

毎年2回(1月と6月)首都圏在住者

を中心として同期会を開催している。

本年最初の例会は月島にてもんじや焼きを食す会とした。齢66になつて、もんじやなる物、食したことがないとの者が大半で私もその一人、まず店員さんから作り方そして食し方を、教授いただき東京下町グルメを楽しんだ。

席上、同窓会札幌支部長を荒川伸夫君がやつており、今年の大会は68期が幹事役となつて開催するとの報告をしたところ、次回例会は札幌にて開催とし、サポーターとして応援に行くことにしようと思ひが一致した。

札幌支部第34回定期大会が7月4日札幌第一ホテルで近郊在住の同窓生100名強の出席があり開催された。東京からのサポーターはタイ在住の奥野友行君も含め、19名であった。

懇親会に先立ち、最近発刊された「函館人」(柳現視社発行)の著者である第49・50期の中村嘉人さんが「函館人」

と題して講演をされた。

軍都旭川、官都札幌に比べ、函館は江戸時代から近郊の海産物、昆布等々により京・大阪の食文化に多大な影響を与えていたことなど、また函館ゆかりの著名人、高田屋嘉平、続豊治、武田斐三郎、柳川熊吉、長谷川海太郎、亀井勝一郎、久慈次郎などについて順を追つてお話をいただく予定であったが、残念ながら高田屋嘉平の末裔である函中後輩の高田嘉七さんとの親交、そして続豊治まで話が行つたところで時間切れとなつてしまつた。以降は著書を参照いただきたいとのことである。(著書「函館人」には随所に「函中人」に関する記載があるので一読あればと思ふ)

引続き懇親会は「今宵はどつぷり函中人」とし実行委員長は田中英昭君、司会進行小田中静恵(斉藤)さんで進められた。我々の期のそれぞれの担任だつた富田勉夫、樋口隆士、上野茂樹先生が出席されていた。

富田先生は今年93歳とか、相変わらず古武士的風貌、上野先生はいかにも英語教師風でスマートさは変わらず、樋口先生はカメラ片手に街歩きを楽しんでいる由、いつも写真付きの季節のお便りメールを同期の皆にお送りいただいている。添付の写真が素晴らしい。

皆さんお元気で何よりです。3次会はすすきの森田勝吉君の店「ぴかもりた」へ、ホテルへ戻つたのは2時か3時か。翌日は札幌駅北口集合、太田勉典君はじめ札幌幹事の皆さんが手配してくれたバスにて余市方面、ニッカ工場、サクランボ狩りへ出かけた。

るニッカ工場で施設見学、竹鶴さん住居・構内散策を行い。試飲会場で17年物の時の織り成す味を堪能。前日の酒量をセーブすべきたつたと後悔。(ニッカ工場は「行つて良かった工場施設の人気No.1」だそうである。)



さらに仁木方面に移動、「鶴瓶の家族に乾杯」で紹介された中井農園へ到着。サクランボ狩り。係りの人の話では樹によつて実の味が違ふとのこと、実の着け方、粒は同じ位だが老木と青年期の樹の勢いの違いか。確かに若い樹の方が甘い。夕方無事札幌駅へ戻つた。これから帰京する者、函館へ向かう者、もう泊し親交を深める者等々次回再会を期して解散した。札幌の荒川夫妻、太田勉典、三ツ谷敏夫、小田中静恵(斉藤)さんお付き合いいただきありがとうございます。

ご案内はメールでお知らせしております。木戸宛お問い合わせいただければと思ひます。

最後に年会費納入のお礼を申し上げます。毎年東京支部同窓会年会費としてお振込みありがとうございます。

支部全体の会費納入が年々減少の中、昨年度68期は37名もの皆さんから会費のお振込みをいただきました。東京支部同窓会の運営にご支援・ご協力いただき大変感謝しております。引き続きよろしくご支援いただきたくお願いいたします。

お知らせ 加藤伸幸・真紀子夫妻が大沼公園に「温カフェ」と言うお店を開きました。お時間がありましたらお立ち寄りください。

「温カフェ」(七飯町大沼一八五の四) 電話0138・84・6848

第71期 加納 元雄

当たるには絶好の日和となつた。全員定刻までに集合し、晴海の船着場を午後5時に出航、船は勝間橋をくぐつて隅田川をゆつくりと廻る。船内では、江戸前てんぷらを始め食べきれないほどの料理が並べられ、早速乾杯!。飲み且つ食べながら、次々と現れる、構造が全て異なる橋を眺めるのは、なかなか忙しい。

そうこうしているうちに、船は本所吾妻橋に到着。ここでしばらく停船し、昨年上つたスカイツリーを、今年は見上げる。634mのスカイツリーを間近で見上げるのは、首が痛む作業である。ここからUターンして船は晴海を目指す。船内では、恒例の近況報告に続いて、カフオケ大会、自信家が自慢の喉を披露する。

出航してから二時間半、船は元の晴海船着場に帰還。全員無事上陸して、夜の都心へと散つて行つた。

さて、来年はどうするか。船内では、「はとバス観光」のリンクエストがあつた。空と海からの東京眺望に続き、次は地上を走り回つて、東京を味わい尽くすのも、一興かもしれない。





第72期さつき会

渡部敏雄

〈劇団ボプラ座
旗揚げ公演が同期会!〉

5月17日土曜日、会場のアルカディア市ヶ谷「伊吹の間」は俄か仕立ての小劇場と化し、さつき会の例会は、同期生が劇団員13名と観客36名とに別れて対峙するという、実に奇想天外な形で幕を開けたのです。

劇団ボプラ座が旗揚げに供した演目は、「なべてうつらふ 一二〇三九年のさつき会」。主役の笹川浩史くん演じる函中生大森浜治が、青雲の志を抱いて津軽海峡を渡り、東京の一流企業で出世街道を駆け上がるもの思わぬ挫折その痛手を函中同期の仲間たちに救われ、やがて浜治ら同期生は米寿の記念同期会の日を迎えたのだが……という、

実に70年間にわたる函中同期生の物語を5場40分にまとめた、形ばかりは本格的な演劇舞台。

「劇団ボプラ座」というのは、我らがさつき会を支える仲良し幹事9人組に助っ人の大森もと子、笹川光代、関谷一郎、田嶋和正くんらを加えた同期生13人が勝手に名乗った素人劇団なのです。小学校の学芸会にすら出たことがない超素人までを、無理やり舞台に引っ張り出そうというのですから、こんな無茶な企画はありません。

「観客」にされた同期会参加者の方も、どうせ短時間のお笑い寸劇なのだろうと高を括り、最初のうちは盛んにヤジを飛ばしていたのですが、途中から様子が変わって来ました。

インには、場面に応じて青函連絡船や会社のオフィス、公園などの背景映像が映し出され、場の切り替わりごとに、照明操作とともに情景に合わせた音楽が流れるという、これは村田秀樹、関谷一郎、古旗邦夫くんら理系クラス裏方スタッフの苦心作。そして舞台上では、主役の笹川くんが、大門常務役の小林繁治くん、元マドンナ立待美咲役の佐野香苗さんら文系クラスの「名優」と絡んで、素人離れた演技で盛り上げました。笹川くんの妻役は大森もと子さんで、同君の本物の妻である笹川光代さんが娘役という、虚実ごちゃ混ぜの配役も大笑いを誘って、人生の哀歓を函中校歌とともに歌い上げるライナーレの頃には、観客は時を経つのも忘れて涙していたとか、していなかったとか。

とにかく、芝居上演という前代未聞の試みが、大成功のうちに幕を閉じたことだけは確かだったようです。

とだけは確かだったようです。
キャラメルまで配られる同期会

観劇の余韻さめやらぬうちに、会場は手際よく小劇場から立食パーティ会場に模様替え。49名の参加者は、毎年開催の同期会ですっかり顔なじみになつており、クラスの垣根など関係なし、どのテーブルでも寛いだ雰囲気、談笑の輪が広がります。

会の中盤には、何年ぶりの参加か思い出せないと言ふ笹森博昭、三島弘子のお二人が「みなさん、お久しぶりです」と挨拶。病気や老親の介護などの事情で、心ならずも会から遠ざかっていた懐かしい顔が戻って来てくれるのは嬉しいことです。

東京同期会なのに遠来の参加者が多いのも、さつき会の特色で、今年も札幌、函館などから7名が参加。中でも湯の川温泉の植物園に関わっている福西秀和、笠井佳代子の2人は、参加者のお土産用にと、新発売の「はこだて熱帯植物園キャラメル」を担いで駆けつけてくれました。

かくして、お土産付き観劇会で盛り上がったメンバーは、徒歩で最寄りの二次会会場に移動したのですが、その数は当初39名の予定が、44名に。余りの楽しみに急遽予定を変更したり、迫力ある受付嬢(っ)に半ば脅されるなどして、参加者が5名も増えていたのです。

僕らが芝居をする事になった訳

が集まる我がさつき会のパワーの源は、なんといつても仲良し幹事会。丹羽修くんが東京を去ったことで、メンバーは9人になりましたが、来年の企画検討だの、広告原稿の打合せなど称しては、毎月のように集まって呑む、笑う、喰うの三拍子。

あれは昨年の9月24日西新宿のピヤテラスでジーンズスカンのラム肉争奪戦に興奮した私が、ビールの酔いに頭をやられて、「そうだ、来年は皆で芝居をやるうー」と口走ったのが、全ての始まりでした。

散会の頃には酔いが回って、何を決めたか忘れてしまうのが、この幹事会の通例。言い出しっぱなしの私だけが独走して、勝手に書き上げちゃいました、上演時間1時間を超えるであろう超大作脚本。

「こんな絶対できないよ」「人形劇でなきや無理だろう」という大反対が、いつの間にか「やつてみようよ」になり、大幅に圧縮された台本を片手に本読みから始めて、スタジオを借りての立稽古へ。誰ひとり学校の演劇部にすら関わったことがないうえ、記憶力の衰えで台詞が全然頭に入りません。それでも素人ほど怖いものはない。実習と称して紀伊國屋劇場に「熱海殺人事件」の舞台を見学に行き、直前には伊豆高原のリゾートホテルに1泊して合宿までするうちに、あれつ、少しづつ「らしく」なってきたような錯覚が。

そこに至るまでの劇団員(?)の頑張り、が凄かったのです。主役の笹川くんは、海外出張中の余暇を全て稽古時間に振り向けて、膨大な台詞を完璧に頭に叩き込みました。五稜角男役の松本浩くんは教師役の村上誠一くんは、公園

で2人だけの自主特訓をし、単語カードに書き込んだり、相手役の台詞を予め録音したツールを活用するなど、かつての大学受験を思い出させる勉強法で台詞練習。田嶋和正くんは、本番の2ヶ月前になつて急遽補強メンバーとして駆り出されたのに、たちまち劇団に溶け込んで、谷地頭秋典役と屋台の亭主役の2役を見事に演じました。

台詞ばかりでなく、役者陣は、学生服や白衣からカツラ、付けヒゲに至るまで、1人が扮装の工夫を始めると、凝るわ凝るわ、一同負けてはおられぬと、稽古の度に仮装大会のボルテージが上がる一方。こうなると村田秀樹くんら裏方組も、クラシック音楽の選曲ミーツィングを開くやら、連絡船の銅鑼の音を調達するなど、負けじと芸術志向に走ります。大道具の手配は古旗邦夫くんが買って出て、公園用のベンチから大型スクリーン、プロジェクターまで大量の装置を、先乗りして会場に運び込んでくれました。

こうして一体何回の稽古を重ねたことか。その甲斐あつて本番では、それぞれ





72期

にアドリブの演技をするほどの余裕が。ただひとり、一番稽古参加の少なかつた黒衣役の池田英一くんが、出番をとんでもなく間違えて、舞台の上の役者は一瞬凍りつき、観客は一同大爆笑。この場面が一番受けたという話は、当分みんなの酒の肴になることでしょう。還暦をすぎた身で、何の利益にもならないことに、これほどまでに熱中できる。この馬鹿馬鹿しいまでのエネルギーがなんとも言えず素晴らしいと思うのです。そして、今さらながら、我が幹事仲間と能力の高さと、誠実さに感心してまいります。私は何度もつぶやいていました。「中部は凄いよ」と。



74期

72期生の皆さん、来年は何をして遊びましょうか？

平成25年11月、京王プラザホテル(新宿)において、『フエックスの会』と称して還暦記念の会を開催しました。ゲストに同期の渡邊真龍君(市立釜石中学校長)、震災当時、釜石小学校長)を招き、三講演「釜石の奇跡を聞きました」。

同期会はおおむね半年ごとに開催していますが、記念の会とあつて、初めて参加の顔、ひさしぶりの顔など、盛り合いとなりました。健康を祝い合い、杯を重ねました。

第74期 フエックス会 五十嵐信博

第79期 七草会 富田 泰広



79期 高梨先生と

79期は「函館ツアー2012」に続き9月14日〜16日の日程で「札幌ツアー2013」を開催しました。

初日、羽田空港出発組は16時過ぎに新千歳空港に到着し、JRで一路札幌へ。ホテルのチェックインもそこそこ慌しく宴会場の中華料理店に向かいました。

参加者は札幌・函館組等を交え50名を超え、定刻前にはほぼ全員集合して主賓の高梨光昭先生を拍手でお迎えしました。76歳になられた先生からは「中部高校赴任2年目に79期の担任となりました。このように同期会に招待されて、

札幌ツアー2013



79期

本当に教師冥利につきます。」の言葉をお聞きいただきました。乾杯の後、宴会は熱気と共に盛り上がり気がつけば中絶タイム、名残を惜しみつつ校歌を全員で熱唱してお開きとなりました。その後2次会でカラオケ、さらに当然のごとく3次会、4次会と続きました。結局ホテルに帰還したのは2時30分を過ぎていました。

2日目は、前日(当日)の余韻を残し、16名が参加して積丹半島の神威岬、二ツカウエスキー余市工場、小樽運河などを巡る貸切バス宴会ツアーを実施しました。

帰札後、食事を称した宴会へと突入し、またまた大盛り上がりとなりました。2次会は台風18号が接近中なので早めに(といつても1時頃)に切り上げホテルへと戻りました。

第80期 末広会 清水賢治

最終日は台風の影響で予約便は早々に欠航となつてしまい、二手に別れて東京を目指しました。運よく別便をゲットできた飛行機組は当日中に帰京しましたが、JR組は海峡線が不通となつたため函館で足止めとなり、多くが実家やホテルに宿泊し、台風一過の翌日それぞれ帰京という結果となりました。

79期の恒例となつたツアー、今年は10月に「平泉ツアー2014」を企画中です。

第80期末広会首都圏は、親睦大会の後に同期会を行う他、忘年会か新年会を行い、年2回程集まることを恒例としている。昨年10月の親睦大会の後、輪嶋君、井上さん(旧姓萩野)が幹事で、男子12名、女子5名、計17名が新宿3丁目の居酒屋に集まった。小生は同期会の案内をよく見ておらず、迷い、近藤君が3丁目の交差点まで迎えてきてくれた。持つべきものはやはり友達である。

話題は高校時代の部活、先生、授業など、同じ話を何度しても飽きないのはなぜだろう。とはいえ50歳をとうに超えている。斎藤君の孫の話はちよつとはやいが、子供の就職を心配する話は年相応だ。小生の趣味である家庭菜園での野菜作りを行っている女子が多いことには驚いた。あつという間の5時間、再会を約束してお開きとなった。

随想



などと憎まれ口を叩く。
暫しの雑談後、

追悼 — 福津さんのエッセイのこと — 第71期 加納元雄

ここに掲載している福津さんの二本のエッセイは、私が福津さんから入院先の病床でお預りした。その時の様子を記して、福津さんへの追悼の辞に替えたい。

「これを会報の編集委員に渡してくれ扱いは任せる。」

と、今回掲載のエッセイを渡された。その場でざっと目を通した限りでは、内容も面白いし文章もしつかりしている。「これだけの文章をお書きになれるんだから、まだまだお元氣じゃないですか。」

福津さんがここ数年何度も入退院を繰り返されていたのは、私も知っていた。だが、入院と伺っていたのに、数日後には元気に事務所現れ、同窓会の事務所として使わせて戴いていた我々と、いつものように穏やかな笑顔で接せられていた。「手術と言っても内視鏡だから、二週間で済んだ。」などと何事もなかったように話す。そんな繰り返しだったので、お見舞いに何うこともなく過ごしてしまっていた。

と申し上げたのに対して、「調子の良い時は良いのだが、抗がん剤治療の後は本当に苦しい。でも、そんな時の方が気が紛れて良いのだ。調子の良い時は、こんな文章でも書いていなければ、気が狂いそうだ。」

ところが、今年一月の理事会の際、梅田さんから、「これが最期の入院らしい。」と聞かされ、今お見舞に伺わなければ二度とお会いすることはできないと覚悟して、その数日後に入院先の東京大病院を訪ねた。

それから二月ほど後、福津さんから「御礼」という熨斗のついた菓子のお話め合わせが送られてきた。「快気祝いではないものの、小康を得ているらしいと少しホッとした。お預かりしたエッセイが、何事もなく随想の一つとして会報の紙面を飾ることを、切に願った。」

福津さんはベッドに横になっていて、持参したお見舞の品を渡すと、

「こんなことされても、今回は快気祝いはないんだぞ。」

しかし、福津さんの訃報が届いたのは、それから一週間とはかからなかった。

長年にわたる癌との闘いの末、いかにも福津さんらしく私たちとの付き合いを絶やさぬまま、一人あの世へと逝ってしまつたのである。

福津さんは、白楊ヶ丘同窓会東京支部の設立以来、一貫してその発展に尽力して来られた。思えば、支部が今日それなりの規模と活力を維持できているのも、福津さんの、懐の深いお人柄と、事務所の提供を始めとする長年にわたる様々な貢献があつたればこそであらう。

福津さんのそのような並々ならぬ活動は、おそらく福津さんご自身の生きる力にもなつておられたに違いない。だからこそ、死の病床にあつても、一時の救いが、函中まつわる思い出を記すこととであり、その文章を同窓会に託すことであつたと思うのである。

福津さんは亡くなつてしまつたが、あの世でも仲間を集めて、賑やかにやつておられるような気がする。

私が死んだら、「よく来たな。まあ、こつちに来て皆と一杯やれ。」などと函館訛りの抜けないゆつたりとした口調で、迎えてくれるのではないか。「そう考えると、死ぬのもそう悪いことではないかもしれない。」

前略ギヤング殿 お世話になりました。

第52期 福津達男

高橋光明。本名はミアキと言うのだが人は「ゴウメイ」とか「ギヤング」としか呼ばなかつた。私の人生でこれほどインパクトを与えてくれた人物は未だにいない。

中学1年1組ギヤングと初めての出会い。2歳年上であつたが、すでに大人の風格を備えていた。

柔道2段の生駒との決闘。また柔道の板垣先生のアダ名を皆で掛け声にし、代表で立ち上がり、福沢と共に退学を命ぜられた時も平然としていた。10日程で復学する。

中学2年。暁部隊の倉庫から乾パンを掻つ払つて皆に配つた。この時からギヤングという様になつたのか。

中学3年5組。文学青年、関谷先生の級。福島ガイ、東出、中村勝哉等、個性豊かな諸兄が集まつてギヤングが命名(名付け)した「腕白(ワンパク)」という級誌の文章づくり、ラゲビーにと夢中になつた時だ。

やがて、中学5年になるのを戦後の学制改革で自動的に新制高校2年生となつた。

当時、港にはエンジン船が多く停泊していた。船底の荷をクレーンに積み込む作業が24時間労働で「塩800円」「石炭千円」と言う破格の賃金であつ



火ばしら会 東京支部



昭和42年卒業
69期

第71期東京地区同期会

紙面への広告募集!!

「東京白楊だより」第38号・2015年8月発行予定

お問い合わせ・申し込みは kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp

た。1日の労働者の日当が「240円」俗に「二コソ」と呼ばれた時だ。ギヤングが「1週間で1万円のことがある」という。高卒の初任給が1ヶ月5千円前後の時代である。

半信半疑だが、やってみる事にした。貨物三台の石炭を、角スコップ1丁で下ろす仕事。期間は1週間。

2時間もやたら急に角スコが重くなり、しかも吐き気や脱水症状やらで具合が悪くなった。お手上げだ。すぐに帰って寝込んだ。

しばらく経って、ギヤングにその後どうしたか尋ねたら、「誰もやるのは居なかったで1人で終えた。但し2日だけ延ばしてもらった」と言う。体の鍛え方がまるで違うのだ。

|| 豚密殺顛末記 ||

ギヤングから「声」がかかったのは豚を養つて太らせ、適当な時期に密殺して売ろうという内容である。

当方、何もできないが、「大丈夫。家が豆腐作りをしているのでオカラが大量に出る。『餌』は心配いらぬ」というのでお任せする事にした。

子豚一頭8千円位の仕入れ価格。手持ち2千円しかないと言つと、「それで十分だ。後2〜3人に声を掛ける」という。

しばらく豚のことを忘れていたが、「泊まりがけで見に来ないか」とギヤングに言われて行く事にした。

10月の初め頃だった。着いたら暗くなっていたので明朝「豚」と対面する事にした。

和室の10畳間。家具らしき物は一つ

もなく、随分広く思えた。布団2組を敷いて寝ながら豚の処理方法を話し始めたが、既に彼の考えは決まっていた。

a. 屠殺場に依頼すると800円の経費も掛かる上、肉を搾取される恐れがある。b. 人に分からない様に密殺する所は函館山しかない。

c. 時期は卒業前の冬休み中とする。翌朝5時頃、目が覚めて階下に降りたらもう少して、「豆腐造り」を終える所で、3時半から作業しているという。

豚は夢中でオカラを食べていたが、そんなに太っている様子ではなかった。「二年ものは春子」といつて、肉は柔らかくてうまいんだ」と言うがこちらは少しでも目方が増えて欲しい。

しかし年明けには100キロいや90キロも無理で、精々85キロ前後だということ。ところでこの豚、雄か雌かと聞くと肝心な所にぶら下がっていないという。

その中、いつもの店番の小母さんが出勤して来たので、2階で朝食をとることにした。何時の間に支度したのかご飯と味噌汁、魚の干物等があった。

お父さんがきちんとYシャツを着て現れ、少し話をしたら、「食事は後でする」といつて引つ込んだ。病身なのか青白い顔をしていた。入れ代わりにはいぶ年の離れた小学高学年の弟と妹が現れ、4人で食事をしたが、母親の姿はどこにもなかった。

学校の道すがらいろいろ話をした。「毎朝早く起きて豆腐造りをして真冬は水が冷たくて大変だなあ」といつたら「小学校2年から「納豆売り」をし、小学5年の時は豆腐造りを始めたのだ

から何とも思わない」とひと言も愚痴らしいことは言わなかった。既に一家を支える大黒柱だったのだ。母親の事は何となく聞けなかった。

また「教科書は一度も買ったことが無い。神経を集中して聞けば分かる。ノートと鉛筆があれば充分だ」と言う。ガンと思いつき頭を殴られた気がした。こちらは自分一人だけの悩み。学校をサボってアルバイトに専念して満足している己が情けなく思った。(彼は東北大学冶金科に現役で入学している)

1月末、豚密殺決行の連絡が入った。朝5時、亀田のギヤングの家に集合。それぞれ籠(ソリ)に肉を入れる袋、縄などをムシロで被せて来る事、ノコ、なた、包丁、秤などはギヤングが用意しているとの事。行くとき永井賢礼と湊がいた。初めて資金を出したのがさらに2人いたことが分かった。尾崎は「肉を売り捌く」といつて付いて来た。

豚は既に縄とロープで巻きつかれていて。誰が豚を引っ張るか、となった。尾崎と私が交代でやる事にした。

しかし、これは大変な仕事だった。豚は真っ直ぐに歩くが方向を変えるのと頭として動かない。そんな時は皆で抱きかかえてようやく方向転換する。おまけに雪道、豚にとっては初めての遠距離で強行軍だ。しかし、豚を引っ張っている異様な集団を咎める人は誰もいなかった。不思議そうに眺めていた大人が4〜5人はいたのだが。

函館山に到着したのは夕方4時頃。普通なら1時間位で着く距離だ。

すでに辺りは薄暗くなっていた。ドツと疲れが出てへたり込んだ。ギヤングが「殺やるか!」といつたが首を横に振った。

雌なのだ。しかもまだウラ若き乙女なのだと思つたら動けなかった。そんな淡い慈悲心とは裏腹に、その後の皆の行動は素早かった。

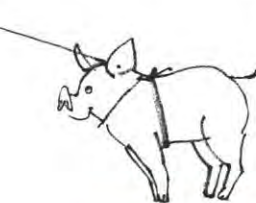
ロープで木に逆さ吊りにして、血を抜き、手際よく4等分して各自の籠に載せた。その時、血の匂いを嗅いで、冬にはいけないと思つていた山犬が2匹降りてきた。骨と臓物を投げ捨てて、一目散に駆け下りて帰路に着いた。

「肉の塊」は20キロで、半分は尾崎が売り捌くといいつて持つていったので、「右手の残りは儲けた。親父が金子のマーケットでカレーライス屋をやつていたので6キロ売つて、後は食べる事にした。」

島嶼が毎日の様に学校帰りに立ち寄り、大釜も参加し、よく食べた。

この事件に携わつた人達。どうにか生きていく私を除いて皆「鬼籍」に入ったそれにしても、これを計画し、用意周到に調査し、即、実行に移したギヤングは凄い。

その後の私の人生で、常に「挑戦」する勇気を与えてくれた原動力は、彼のお陰と、此の世で会えたことに、心から感謝しております。



「さつき会は今年も大盛況!! 来年も懲りずに盛り上げます。」 幹事一同

72期(S45年卒)東京同期会「東京さつき会」
来年の例会は……2015年5月16日(土)17時より
(広告協賛) 新宿御苑前 渡部総合法律事務所



《ガミさんと檀家廻り》
第52期 福津達男

二上達也君とは小学、中学、高校と同じ学校を通った仲間意識からいつも「オーイ二上」と呼び捨てであったが、将棋界の重鎮であり、ファンも大勢いることから、今さら「二上さん」と言うのも他人行儀なので《ガミさん》の愛称で呼ぶことにした。

「白楊ヶ丘同窓会」「東京青柳会」の会長を長らく続けていて、私の事務所を提供していたので、いつの間にか週に三回はガミさんが来る様になった。軽く一献下地を作って夕刻六時頃になると《檀家廻り》が始まる。お馴染みの飲み屋を《檀家》という。

「寿司勝」

事務所の近くに、ヤクザっぽいコワモテの親父が、それでも愛想笑いを取り繕って握る鮨はなかなかである。築地で仲卸をしていた竹澤は「仕入れ先で善し悪しがわかる」という。

鉦路から来る金曾は「此処の穴子は天下第一だ」と煽って二本も平らげる。私は鮑のウロ、うに、鱒子で日本酒を飲むのが一番。「親が喰っても子は喰うな」と言うが、子や腸(ハラワタ)は、ウン、うまい。

ガミさんが「干瓢巻」を頼んだら、「鮨屋で喰うものじゃない!」と言われた事から、好んで行く「檀家」ではなくなつた。

「青野」

太宗寺のそば。カウンターのだけの、薄暗いスナック。美人のママが迎えてくれる。将棋の棋士が良く来る所。

「ウインザー」

加戸守行著作権理事長。後に愛媛県知事。もともと文部省事務次官になる予定だったが、リクルート事件で流れが変わった。文部省一家が集まるクラス・スナック。加戸さんは大の二上ファンでもある。

ここで「歌の調整」をして出発する。

「寿志一」

末広亭の裏。連盟が応援している。将棋の棋士が良く来る所。鮨はまずいので、私はほとんどガリだけにする。ガミさんは「雰囲気が良いけれども」と良く食べる。ここはガミさんの落ち着く店で、悩み事は大体ここで喋り始める。

「大山さんから会長職を依頼されたけれど受けた方がよいだろうか?」とか「家族は血液型が皆オールAなので、気の合う時はピツタリのだが、合わない者も皆んな転々バラバラ」とか。「福津はフリーで羨ましいなあ!」と何度も言う。「こちらは、名もなく、金もなく、女房もいないだ!」

「だからいいんだ!」という。

「函館の市民名誉賞の話があるがどうか?」「多くの芸能人が貰った後なので断るのかと思つたら、意外にも貰うんだつたら、何でも良い」と言うので、少々驚いた。

函館市からは「満場一致で決まりま

した。二上先生の事はもつと早くすべきたつたのにすっかり忘れてました」との事。祝賀会はどうするかと聞くと20〜30人位でまとめてくれと相変わらずの謙虚さだ。

それじゃ面白くない、200人位呼んでパツと盛大にやろうじゃないかと、渋るガミさんを説得し、やつとの事で一任を得た。

会場はホテル大倉系のダイヤモンドホール。食事は悪かろう筈がない。受付には小百合美女軍団が勢揃い。

(ガミさんはサユリスト。吉永小百合は将棋が強く、一度教えた事がある。) 一部は型通り各界からの祝詞を短時間に終わらせ、第二部で勝負を仕掛けた。

会場が静かに暗転。そして強烈なスポットが、故・竹澤の愛娘・佳江さん達を浮かべせ「馬簾太鼓」が響き出した。鮮やかなバチ捌き、激しいリズムが会場内に大きく轟く。精魂込めた、手に汗握る熱闘の演技が拡がった。会場内、割れんばかりの拍手が鳴り止まない。この一発で成功したと確信した。

津軽の夫婦、娘三人の民謡。手品と続いた頃、将棋会の皆さんから一斉に「二上会長に早く歌を!」と声が掛かった。

「待つてました!」愈々の登壇である。

二上夜曲(北上夜曲)相方はびゅつくのママ。アンコールに添えて夕陽の丘(函館で口ケ、裕次郎と朝丘ルリ子)相方はポトスのママ。最後に「故郷」を全員で合唱。三時間半に至る長時間だったが、アツという間に終わった。

一万円の会費だと安過ぎるといわれ、やはり満足させる企画が大事なのだと思つた。準備に半年かかった。

「一步」

ゴールデン街には四、五軒の檀家がある。入り口近くに「一步」という家。沖繩出身の順子ママは将棋ではなかなかの腕前である。甚も有段者の由。

この日、三、四人の先客が居たが、ママは沖繩帰省中。代理ママが接客していた。そこへ一人の酔客が入つて来た。何となく不吉な予感がしたのでガミさんに「こ出よう」と言つたが、もう少しいるという。その客は「二上先生じゃないですか?」そしてこの後のセリフ。「何時も大山先生に負けている弱い二上先生。と三回も言つた。

「この野郎!」

ボカボカと殴つたが、それだけでは腹の虫が治まらない。本格的に叩きのめしてやろうと立ち上がった時、三人に両腕を取られ、「我慢」と止められた。後から考えたら、新聞沙汰になつて二上の名前が出たらまずい事だつた。

二上の将棋は、切れ味鋭く攻め抜く。しかし手先をかわされると、守りは弱い所もあった。弟子・羽生棋士に三連敗したら、色紙に「流れる水は清らかに静々として山に登る」と認めて五十六歳で早過ぎる現役引退をした。

二日くらい経つて順子ママから「留守にして申し訳ない。あの男は出入禁止にした」とお詫びの電話があつた。

「ポトス」

ママの絵美さんとも長い付き合いだがマスターの伊藤さんとは将棋会館

食堂でラーメンを作つていた時から40年以上も経っている。また、伊藤さんの妹はガミさんの弟弟子になる勝浦先生のお奥さんだという。今、お互いの弟子羽生棋士と森内棋士が名人戦を争つている。ここはガミさんの一番安らかになる場所である。

「いい日旅立ち」に始まり「王将夫婦」「恋人よ」「二上夜曲」迄十曲も歌うと超「機嫌でチップを余計に弾むことになる。

ガミさんの少々「吃りの癖」があつたのを「歌で匡正した」という。

音程が多少乱れていても最後にピツタリ合わせる何ともいえぬ味のある二上節を完成させた。一日2回顔出すこともある。

「松前屋」

相撲の松前山が経営する高級割烹。

「紫野」

文部省一家が集まるAクラスのクラブ。行くところ「どさり」お土産を寄越すが甚だ迷惑だ。

「びゅつく」

最も古い。カウンターだけの店。将棋や碁の先生がよく集まる所。

「昇戸」

コマ劇場、背後のビル5F。台湾料理の「青葉」や「北海道」がある。

ガミさんお気に入りのカラオケ・クラブで、歌の調子が良ければここでも気前よくチップをはずむ。

「二上道場」

JR新宿駅中央口、西部新宿駅より3分位の便利な将棋センター。利用者は日本一の大勢で、此処で三人に限り指導し、奥にある小さなカウンターで作ってくれる「つまみ」で一杯飲む。ここから「榎家廻り」が始まる事もしばしばであった。

しかし共同経営者とは最初から気が合わなかつた様で、私にやらないかと声が掛かった事もあった。

ある日、激怒して私の事務所に来て興奮しながら話し始める。こんなに怒りを表すガミさんを今迄見たことがない。共同経営者のK氏(ゴイツは日本人じゃないが、又貸して保証金を持ってトンスラしたのだ。ガミさんはビルのオーナーに訴えられ、スケルトンにしろと言われ、結局、手放さざるを得なかつた。唯一の楽しみを失った。

「津軽」

真向かいに「津軽塗」のカウンターがあり、さらに奥座敷には手彫りで同じく津軽塗の六角形のテーブルがあり、壁から天井まで装飾は重厚な雰囲気醸し出している。初代の料理は抜群の味だったが、女優を目指していたママに代替わりし、板前も代わったことで味が変わった。マズイ!。こんな不味い料理を今迄喰ったことがない。しかしガミさんは黙々として食べる。大したものだ。

「ドレスデン」

最後に立ち寄る所。昭和初期のレトロ調のウイスキーバーである。

他に新宿、渋谷、代々木上原、等に十五軒程の「榎家」があるが割愛する。

「話変わって」

*私の事務所に北海道から「生きたホタテ」が届いた。

刺身とバター炒めをつまみに、一杯飲んでいたら、ガミさんが先日転んで両手骨折。「その入院先でさ、美人看護師が、前をすっきり綺麗に洗ってくれたんだ。とても良かった。」とツッコミ笑った。

ガミさんも人の子だ。それじゃ今夜は吉原に繰り出そうとOKをとって向かった。しかし先方に着くや「今日は止めとこう」と。これで二回目。浅草の「神谷バー」で飲み、近くの蕎麦屋で一杯飲んで帰る。

マスコミの目を気にしているのだ。それでは思いを実現するには国内脱出しかない。台湾へ行くことと決めた。昔の悪童数人(会社の大事な株主様)をサクラに、飛行機もホテルも料理もファーストクラス。新淡水でゴルフもやり、よく飲んで、よく食べて歌って遊んで、三泊四日のデラックス旅行だった。

会社も景気が良かったな。それからしばらくは「あの時は良かったね。」と本人は満足気だった。

今、ガミさんは、グループホームに居して三年経た。人の顔の見分けが、判然としなくなつた。幽境の地を彷徨って、何の「夢」を見ているのだろうか。

入居する前「将棋のことは一切忘れた」と言っていた。「出来れば女学校の先生をやりたかった」という想いで教壇に立っているのだろうか?

いや、やはり馴染みの「榎家」を二軒ずつ廻って、飲み、歌い、そしてチップを払っているのだろう。

『流水不爭先』 二上達也 (流れる水は先を争わない)

*小生 今回 緊急入院したが...

一向に良くならない。結局、胆管がんと、転移による肝臓がんで末期とのこと。八十一を過ぎて「盤寿の会」も終わった。

好きなことをやつてきた人生である。丁度潮時か。ガミさん、ひと足、先に逝くけれど、向こうで良い店を開拓しておく。また一緒に「榎家廻り」をしようじゃないか。



函館市の人口について

第76期 高野 勝弘

「高岱町」、「富浦町」、「吉畑町」さてこの中で函館市の町名として実在しているのはどれでしょうか?

正解は、すべて実在しています。これらは、いずれも平成16年の町村合併により函館市となった区域の町名です。

函館市は、昭和41年の亀田市との合併により一時は人口30万人を優に超えていましたが、昭和55年ごろを境に減少の一途をたどり、平成16年の戸井町、恵山町などの合併により幾分持ち直したものの、やはり減少傾向は変わらず、平成26年6月末では27万2591人となっています。

やはり故郷の人口が少なくなるのはさびしいことは考えるものの、自分自身も人口減少に貢献してしまった張本人の一人です。多くの人が待ち望んでいる北海道新幹線の開通まで2年を切り、2016年の春には開業の予定となっています。新幹線の駅は、ご承知のように市街から十数キロ離れたところに設けられ、駅名も「新函館」をのぞむ方が函中OB各位には多かつたものと推察しますが、結局「新函館北斗」と函館市出身の者にとりましては歯がゆさが残る結果になりました。

長年、早期開通が望まれてきた北海道新幹線の一部がとりあえず開通します。が、開通した場合に、函館市の人口がさらに減少するのではないかと危惧がもたれているのも事実のよう。何とも皮肉な話です。

今後は、「函館市」としてだけではなく、眺望の際立った駒ヶ岳、大沼などの地域とともに「函館圏」としての発展を祈念し、ふるさとに活気がみなぎること」を望みつつ、自分自身も何か一役買えればなあ、と考える昨今です。

第76期東京地区同期会

(昭和49年卒業)

「あす76会」ゴルフコンペ(1月、4月、7月、10月) 同期の皆さまのご参加をお待ちしています。

七草会

第79期 1977年卒業

HPにて情報発信中

http://chubu79.digi2.jp/



株式会社 計画機構一級建築士事務所 ■建築設計・コンサルティング

alpha Conservatories Ltd. ■ガーデンコンサルティング ■英国コンサバトリー設計・施工

株式会社 アルファコンサバトリーズ 創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計

代表取締役 山田 朗 (73期)

180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインプレックスSA TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960 http://alpha-it.co.jp/ E-mail:info@alpha-it.co.jp

W.C.U.P.ブラジル大会を巡る旅
(サッカー文化を楽しむ場当たり独り旅)
第73期 山田 朗

チケット無しの場合独り独り旅

4年前よりサッカー本場の大会には是非とも行きたいと思っていたが、最低でも10日間の仕事の調整や、治安の悪化の報道に半ば諦めていた。

いよいよ開幕1カ月前になりダメもとで格安航空券を探してみたら、意外にもまだ有る事が分かって、高血糖の血が騒ぎ、頸椎症の首をついつい支えつつ、胃潰瘍の胃も行きたくないよう！と言うので急遽なりふり構わず旅立つ。

中近東の航空会社を使い、アブダビ迄12時間、乗り換え待ち4時間、その後サンパウロ迄14時間のフライトは拷問に近い。

出発前は毎夜インターネットでブラジルの勉強や国内移動の予約。直前にブラジルはまだ観光ビザが必要な事と国際免許が使えない事を知り、大慌てでビザ取得へ五反田の領事館へ行く。現地チケットは無いものの、ワールドカップ特別発給で1日で取得できた。

今年に移民100周年の節目の年とも重なり、日本からの応援サポーターに色々支援の会がある事を知った。また運よくお客様の知人に宮城県人会の窓口になつていた方の名前も紹介頂き、6月12日夕刻サンパウロに到着。その足でリベルダージ地区にある宮城県人会館へ向かった。

夜10時からの初戦のコートジボアール戦はこの宮城県人会館で現地の日系

人達とスクリーンでの応援となった。前半本田選手の豪快ゴールで盛り上がるも後半逆転され、初戦を飾る事は出来なかった。

サンパウロで知る
東北震災後の子供達！

翌日、私が目的地としているナタウのギリシャ戦のチケットを得ようと昼前には宮城県人会館へ再度伺う。

運良く昨日の初戦のコートジボアール戦をレシーフエのスタジアムで応援した日本人サポーター達が大雨の中の試合で、尚且つ負けてへこんで肩を落として戻って来ていた。

サッカーを通して支援活動を行っている「ちよんまげ応援隊」(検索:ちよんまげ隊)と言うグループで、石巻牡鹿半島の中学生4人を募金でワールドカップに連れて来ていた。

震災支援をしてくれたブラジル日系人への感謝行脚をしている。中々ユニークな支援の仕方。隊長のツノダヒロカズさんと、中学生達とランチできる幸運にありつく。



宮城県人会 前列黄色シャツが中学生

そして彼等を取材に来ていたサンパウロ新聞の倉茂記者と会う。若いので幾つか質問すると、何と某大学政経学科の3年生で1年休学し、サンパウロ新聞の記者として働いているとのこと。意気投合し、この後の私の旅程に大いに助けとなってくれた。

サウダージ「黒いオルフェ」1959

私の旅程はサンパウロに2泊し、その後は1日ずつリオデジャネイロ、ブラジリアと移動。ナタウに前日に入り、ギリシャ戦に備えるという予定を組んでいた。翌日はリオに移動。

有名なマラカナンスタジアムが有るが、私はむしろ子供の頃父の自作の電音で良く聞かされていた映画音楽で、後に知った映画「黒いオルフェ」の舞台となったコルコバードの丘のクリスト像の傍に行ってみたかった。

この丘から望むリオの町は絶景だが、観光客が多くて郷愁に浸る余裕はなく、遠くマラカナン競技場を望んだ。



ブラジリアでブラジルの...

リオからブラジリアに寄るのは、20世紀巨匠建築家の「マイヤ」の建築を見たかったから。朝早くリオから空路移動した。

ホテルチェックインの時に議事堂付近

に行きたい事を伝えると、バスツアーが2時にあるからと勧められた。3時間のシテイツアーで100レアル(約五千円)願ったり叶ったり！予約し支払う。2時にフロント行くと、さっきの女の子が今日はブラジル対メキシコ戦のテレビ中継があるから6時になったと言う。それではナイトツアーか？と訊ねると、いやまだ明るいから大丈夫よ、と微笑む。

しようがない。部屋でブラジル対メキシコ戦を見て丁度6時に下りると、さっきの子は居ず、応対した男に伝える。何やらあちこち電話している。:嫌な予感。30分待たされた挙げ句、今日はツアーは無いとぬかす。

「バカヤローとほげるな！」昼間の時間はどうしてくれる」と詰め寄る。「100レアル返すから」と云うが、「それならタクシーに交渉して連れて行け」と語気を荒げると、「自分の車で案内するから」となり、やつと見られることになった。勿論すっかりナイトツアーになった。

この落ちはまだあつて、返却された封筒には40レアルしか入っていない？フロント男に見せると、それはホテル半分バス会社半分だからとぬかす。半分なら50レアルだとツツツツ言ってる自分が情けない...まあこれも独り旅の悲哀と受け入れる。さらにホテルマンに自分の車にガソリン入れるからと50レアル払わせられ、結局は同じ様な支払いとなった。外交戦略的には善しと納得せざるを得ない。

屋間の写真は幾度となく観ているが、夜景も良いなと、「ヤケい」にならずに気を取り直した。



議事堂隣の協会と彫刻群

聞くところによると、現在ブラジルでは構造計算が要らない。感覚的に柱は日本の3分の1か、地震が無い土地は積木の家が良い。ブラジリアの議会庁舎は周囲が全て人工地盤で、道路から45度の角度で掘り下げられていて道路には全く柵が無い。10m下が芝の処はまだしも、駐車場のアクセス道路に転げ落ちると死にそう。道路にフラットに接している処には辛うじて渡らないよう柵らしきものがあった。

ナタウ(Natal)でのギリシャ戦
日本からサンパウロまで2万km、ギリシャ戦のナタウまで2500km、やつとたどり着いた。

第2戦が分かれ目と踏んで、ここに標準をつけて回り道したが、いよいよだ。サンパウロで情報を得て、まずはナタウ海岸近くのホテルで日本人サポーター200人による応援前夜祭に参加した。遠藤選手のお父さんがゲスト。ナタウは赤道近いせいかまるで沖縄のよう

海岸が美しい。



ちよんまげ応援隊のお陰でギリシャ戦のチケットをゲット出来た！

遠藤選手のお父様とも必勝を誓い、午後から競技場に向かいサッカー会場付近を下見。警備の警官達があちこちにいて談笑している。興味をそそられる銃を持つているので近付き、銃を見せろと頼んだら、触らせてくれて、一緒に写真撮ろうと逆に迫られる。

この辺りではこんなに多くの日本人が集まる事がないから、逆に興味津々。精一杯の友好を心掛ける。



競技場へ向かう3時間は敵味方構わず一緒に写真撮りたいリクエスト多く、入場まで3時間の撮影会となった。試合は前半にギリシャに退場者を出

し、楽勝ムードの中幾度となくチャンス得るも得点できず。ドローに終わった。



さて、負けてますます長く感じる帰路。空路だけでは詰まらないと思ひ、日本が初戦を戦ったレシーフェまで長距離バスにした。約300km、4・5時間か、ここから3日掛けて日本へ戻る。

鉄道が無いので、何処へ行くのもバスか飛行機、日本のありがた味が身に沁みる。ただバスシートは飛行機よりもラクチンだ。

延々と続く草原の丘と熱帯雨林にブラジルの広大さを感じながらバスに揺られるのも悪くない...とゆったり楽しむ構えだが、その余裕は長くは続かなかった。

やはりブラジルの？

長距離バスは出発して間もなく、住宅街の小路に入った。近道でもするのかもしれない。乗客が1人助手席に座って道案内している。5m位の路地でこの超大型バスが曲がれる訳がない。

バスは歩道に乗り上げながら何回も切り返し進むが、コーナーの度に街路樹枝にはバリバリぶつかると、歩道の緑石にタイヤ擦り乗せたり、バンクでもしたら身動き取れなくなるよーっ

とハラハラしっぱなし。40分位掛かって幹線道路に出た！毎日5便あるバスが何でこんな事に？



お陰で住宅街の写真が沢山撮れたが、途中1回休憩があるはずが、遅れのせいで停まる様子もない。レシーフェの10km位手前で大渋滞に突入。ノロノロ進むが、出発から既に6時間掛かっている。

煙がモヤモヤで煙幕状態。火事かと思つたら何と路肩の草を野焼きしてる！道端ならぬ炬燵？のバス停に止まり又ドライバーが叫んだ。乗客がバタバタ半分位降りようとしてる。このまま大渋滞を終着まで乗つたら、又私の昼間の時間が無くなる！と思わず降りる。

ナタウでもらったチラシの注意、決して流しのタクシーは乗るな！が一瞬間をかすめるが、何としても1500年代にポルトガルが開いたレシーフェの旧市街に行きたいとタクシーに乗った。時間は1時間半しか無かったが、レシーフェを一回りし、深夜空路サンパウロに戻る事が出来た。

止まる度に物売りが多く、空港への地下鉄でも何人も物売りが乗ってくる。私はバックパックにポーチとカメラぶら下げた典型的日本人。視線を感じな

が汗とアドレナリンが出っ放しだった。

ブラジル食文化研究

(Saude! Churrasco)

再びサンパウロに戻って倉茂記者と再会し、時間の許す限り案内をして頂いた。

シユラスコは牛肉を岩塩でシンプル大胆パーベキューにしたブラジル料理。牛肉部位別にストップするまで次から次とやってくる「わんこそば」の様。サイドメニューにココナツ椰子の新芽を焼いたものが出た。さながら焼き竹の子か？プツフェ形式なのでサイドメニューも食べ放題で種類も多い。

酒はサトウキビ蒸留酒カサシーヤを使い、ライムを3/4個搾つてカクテルにしたカイペリーニヤが美味い。フェジョアータ(Fejoadá)は典型的庶民の食で、牛肉豚肉の雑部を黒豆で煮たもの。日本のモツ煮を黒豆で



サンパウロ新聞倉茂記者と

煮込んだイメーシに近い。ほんのり甘さが後をひく。土曜日に食べる事を習慣としているのは、イタリアの「ツッキ」が木曜日の習慣と似ているが、宗教的な事由来するのだろうか。

Saudades para Brasil!!

往復して地球一周、もう二度と無いと思うと感慨深い。今回ブラジル大会ではサッカー文化としての盛り上がり大いに期待して渡伯したが、期待は大きく外れ街の賑いは何もなかったと言つて過言ではない。

サッカー観るならヨーロッパに限る。四年後ロシア大会では帝政ロシア時代の美術とチャイコフスキーに会えることを期待し、体力的に動ける事を祈念している。

後日談、帰りにC/Dショップを2軒駆け巡り、店員さんにポサノバ、ポサノバと連呼して最近のものを16枚買集めた。ポサノバのはずが違うものも混じっていたが、それはそれでブラジル音楽を楽しんでいる。

73期 山田朗 (8年前のドイツ大会紀行も29号に寄稿)



ちよんまげ隊長ツノダさんと

ポプラ会ゴルフコンペご報告

ポプラ会ゴルフコンペは、白楊が丘同窓会の会員のなかでゴルフをする方はどなたでも参加できるものです。年1回開催の年もありましたが、一昨年から、春～夏と秋～冬の年2回開催しています。昨秋の第36回と、今年7月の第37回の2回のコンペの結果を報告致します。



**第36回
ポプラ会ゴルフコンペ**
2013年11月26日(火)
浦和ゴルフ倶楽部
参加者:20名
優勝 61期 金子公彦氏
2位 61期 佐々木住明氏
3位 72期 佐藤禎子氏



**第37回
ポプラ会ゴルフコンペ**
2014年7月8日(火)
浦和ゴルフ倶楽部
参加者:12名
優勝 67期 安田康次氏
2位 60期 水江彰一氏
3位 72期 佐藤禎子氏

昨秋のコンペは晩秋ながら比較的暖かな晴天に恵まれました。7月のコンペも、未だ梅雨の季節であり台風接近のニュースもありましたが、風の無い晴天に恵まれました。次回は、また、秋の平日に開催予定です。ゴルフをされる皆さんはまだまだ大勢おられるものと思います。参加ご希望の皆さまは、ぜひ、同窓会事務局までご連絡ください！

函館巴会ゴルフコンペご報告

函館巴会ゴルフコンペは、西高校、東高校、そして中部高校3校のゴルフ対抗戦です。毎年1回開催されており、今回は第18回、西高校の幹事で、4月18日、茨城県の「茨城東急ゴルフクラブ」で行われました。

3校総勢27名、我が校からは8名の参加となりました。ルールは、新ペリア方式で、各校、女性1名を含む上位6名の順位番号のトータルポイントで競い合います。成績は、優勝・東高校、2位・西高校、3位・中部高校という結果になりました。今回は、ハンディキャップに恵まれなかったのが敗因のようです。

次回は、中部高校の幹事で来年の春に開催予定です。13名の枠を設けます。腕に自信のある方も、また、上位の成績は常連の皆さんにおまかせして他校との交流第一でご参加される方も次回をお楽しみに。多くの皆さまのご参加を歓迎いたします！



白川正広(76期)記

物故者 謹んでご冥福をお祈りいたします ※年会費払込票及び大会出欠葉書きにて、ご家族からお知らせがあった方です。

- ◆ 前田 徳尚(昭12年卒39期) 平成24年12月24日逝去
- ◆ 柿田 清二(昭13年卒40期) 平成22年10月10日逝去
- ◆ 目黒 剛(昭13年卒40期) 平成22年12月26日逝去
- ◆ 長沼 洋一(昭15年卒42期) 平成24年10月18日逝去
- ◆ 板垣 周一(昭17年卒44期) 平成25年7月9日逝去
- ◆ 久保 周一郎(昭17年卒44期) 平成24年11月18日逝去
- ◆ 網野 善治郎(昭17年卒44期) 平成18年逝去
- ◆ 桜井 政夫(昭20年卒47期) 平成24年10月22日逝去
- ◆ 村岡 昭典(昭20年卒47期) 平成24年12月9日逝去
- ◆ 渡辺 丞二(昭20年卒48期) 平成25年2月20日逝去
- ◆ 宮崎 昭雄(昭21年卒49期) 平成25年4月6日逝去
- ◆ 山田 喜志夫(昭23・24年卒51期) 平成25年1月14日逝去
- ◆ 坂口 良宣(昭23・24年卒51期) 平成26年4月29日逝去
- ◆ 南 健(昭23・24年卒51期) 平成26年5月13日逝去
- ◆ 熊谷 直敏(昭25年卒52期) 平成26年4月10日逝去
- ◆ 高野 保(昭25年卒52期) 平成25年1月28日逝去
- ◆ 福津 達男(昭25年卒52期) 平成26年4月27日逝去
- ◆ 小嶋 敏男(昭26年卒53期) 平成18年逝去
- ◆ 五味澤 庚四郎(昭26年卒53期) 平成25年8月7日逝去
- ◆ 前濱 秀信(昭26年卒53期) 平成23年9月11日逝去
- ◆ 片山 明子(昭27年卒54期) 平成25年8月23日逝去
- ◆ 加藤 重行(昭27年卒54期) 平成23年10月逝去
- ◆ 高垣 律子(昭37年卒64期) 平成25年7月27日逝去
- ◆ 新田 玲子(昭38年卒65期) 平成25年7月27日逝去
- ◆ 大竹 均(昭39年卒66期) 平成25年7月27日逝去
- ◆ 高橋 明靖(昭39年卒66期) 平成25年7月27日逝去
- ◆ 村岡 括彦(昭39年卒66期) 平成25年2月3日逝去
- ◆ 桃井 慎一(昭39年卒66期) 平成25年11月逝去
- ◆ 小川 健二(昭40年卒67期) 平成26年7月12日逝去
- ◆ 鈴木 正裕(昭40年卒67期) 平成25年9月16日逝去
- ◆ 田中 松男(昭44年卒71期) 平成25年9月16日逝去
- ◆ 祐川 伊左久(昭48年卒75期) 平成25年9月16日逝去
- ◆ 柴田 順行(昭50年卒77期) 平成25年9月16日逝去
- ◆ 加藤 直樹(昭54年卒81期) 平成25年9月16日逝去
- ◆ 東松 仁(昭54年卒81期) 平成25年9月16日逝去

会員短信

平成25年8月以降の会費の振替票と返信はがきのメッセージから



●**風間 憲吉** (S10年卒37期)
前回同様、体調不良のため欠席させて頂きます。会員の皆様と同窓会の益々の御発展を祈ります。

●**釣谷 光博** (S10年卒37期)
病気療養中の為、欠席させて頂いたいただきます。御盛会を祈ります。

●**今井 清** (S13年卒40期)
しばらくぶりで親睦大会に出席して諸兄にお会いするのを楽しみにしております。

●**毛利 啓次** (S14年卒41期)
昭和9年3月の函館大火の年に函館に入学した頃を思い出したり、ポプラ並木のグラウンドでの運動会等々懐かしいです。

●**松井亮太郎** (S14年卒41期)
以前は出席しておりましたが、十数年くらい前から同期生の出席者がいなくなつたので、さびしく欠席しております。また家族も横浜から東京都内へ出かけることに心配しておりますので欠席します。ご免。

●**鈴木 勲** (S15年卒42期)
加齢と共に足腰の不調が多く、交通機関の乗降が困難となり、集会の出席など断念しています。

●**宮本 寿一** (S15年卒42期)
御案内賜りまして誠に有難うございました。小生も高齢なので欠席します(85才)

●**渡辺 保二** (S19年卒46期)
我々46期の函中生は米寿を迎えましたが、なほ元気で同期会を続けています。

●**多和田昭二** (S19年卒46期)

今のところ元気です。平成26年は卒業70周年記念の年で、数え年88歳になります。皆様の御活躍を祈ります。

●**山科 喜一** (S20年卒48期)

幹事役御苦労様です。私は昭和20年卒業の84才。幸いに健康に恵まれ、ゴルフやスキーを楽しんでおります。今回も開催日に函館の弟の家へ行くことにしていますので、欠席します。御盛会をお祈りします。

●**長島 康** (S25年卒52期)

いつもお世話になり有難うございます。今後も楽しい会の運営を期待しております。ご活躍を祈ります。

●**折居 忠夫** (S26年卒53期)

元気にしております。10月12日は家内が満80才となり、子ども孫たちがお祝いの会を開いてくれる予定になっておりますので欠席させていただきます。

●**伊関ユキ子** (S26年卒53期)

先ず御返信おくれましたこと深くお詫び申し上げます。出席出来ませんが、御盛会でありませうお祈り申し上げます。

●**漆崎 雄一** (S26年卒53期)

ペースメーカー手術して4年半。元気で相談役として働いていますが、81才を超えて、ゴルフも年々減りました。幹事役ご苦労さまです。

●**馬越 道子** (S26年卒53期)

ダンスと英語と書道に読書が私の生涯学習になっています。それにしても人生つて短いものですね。

●**遊佐 紀子** (S26年卒53期)

いつもご案内ありがとうございます。御盛会をお祈り致します。

●**及能 正男** (S27年卒54期)

同期大会終了。勝手連は3・6・9・12各月第2火曜13時 有楽町「ユートーキヨウ」に集合中(幹事、遠藤宏氏)

●**松田 守正** (S27年卒54期)
4年半前に54年連れ添った妻が死亡、

以来ひとり暮らしをしながら長年にわたる高次脳機能障害との闘病生活をしながら、リハビリ、ボランティア、高次脳機能障害支援活動と一度も同窓会に出席したことがありませんでした。80歳になり、休みなく動くことで生き甲斐を！初めて出席する気になりましたのでよろしく。

●**赤澤 高** (S28年卒55期)

今年こそ出席したいと思いましたが、残念ながら先約あり、どうしても都合つかず欠席となります。一週間どちらかにずれたら良かったのに。

●**北原 徹** (S28年卒55期)

皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

●**栗崎 健一** (S28年卒55期)

年をとるとどうしても外出が億劫になる。とり分け夜の会合はきつい。幸い最近の同窓会は昼間の開催が多くなり有難く、函館弁で賑わう会場に足を踏み入れたくなる気分になっている。

●**高木 幸子** (S28年卒55期)

いつもお世話になっております。猛暑の中、皆様方の頑張りに感謝しております。

●**桃井 光子** (S28年卒55期)

お世話になり感謝して居ります。昨年東京で同期会が開催され、久しぶりに同期の皆様にお目にかかる事が出来嬉しゅうございました。間もなく八十路を迎えようとしている身では、出席は無理と思います。勝手ですが皆様によりしくお伝え下さい。

●**浅岡 勤** (S29年卒56期)

中島町の町名由来の浦賀奉行所与力、中島三郎助の会で、中島町の碑前祭に浦賀の方々35人を案内して参加しました。これは中島町々長の故船山圭右君(同期生)の肝いりで続いているもので、今回は西澤貞吉君(同期生)の支援により盛大に行うことができました。

●**加藤 正秋** (S29年卒56期)
後輩(83期)の企画による親睦会を楽しみに出席します。H26年には56期(福緑会)の卒業60周年と傘寿をあわせて、函館での会が行われる

●**澤田 経子** (S29年卒56期)
同好会の先約が3か月前から決り出席出来ません。高校3年間はアニス部で白球を追いかけ、楽しい思い出を懐しみながら、只今は週一回のボウリングで汗をかき、身体の劣えを残念ながら実感しています。御盛会で心地良い日でありますように。

●**津田 恭一** (S29年卒56期)

来年は卒業60年！最近、残念ですが老人化を感じるようになりました。

●**藤本 一郎** (S29年卒56期)

残念ながら私事とさきなり出席出来ず。皆々様のご健勝を念じます。

●**沼崎 茂子** (S29年卒56期)

お返事がおくれて申し訳ございません。当日都合が悪く欠席します。

●**根上 義昭** (S29年卒56期)

6月に3回目の大動脈瘤の大手術を受けました。何とか生還しました。

●**藤本 一郎** (S29年卒56期)

今年も出席と思っておりましたが、私事とさきなり欠席します。皆々様の御健勝を念じます。

●**南 卓夫** (S29年卒56期)

いつも案内をありがとうございます。広葉樹の森づくりボランティアで体を動かして居ります。欠席で申しわけありませんが、御盛会をお祈り致します。

●**吉田 精吾** (S30年卒57期)

25年は5月に同期会を開催した他、有志で毎月の囲碁に加え、11月に山形旅行、12月には忘年会麻雀大会と「喜寿」を満喫した。26年も三元気で長生きをモットーに、気のおけない仲間と「深交」を高め、一日一日を大切に生きていきます。

●**川口 千代** (S30年卒57期)
「東京白楊だより」に「中部高校の英語教育」について記事が載っております。改めて、私共の在学時の担任・越田平八郎先生の英語教育(米フルブライト留学後、中部高校着任)のお蔭で、今の自分があるのだと感謝しております。

●**小竹 嘉子** (S30年卒57期)
毎年出席出来ることに感謝しています。社会教育のグループで戦後の生活状況など小冊子にして出版する予定です。

●**多和田 収** (S30年卒57期)

幹事の方にはいつもお世話になり有難うございます。

●**信太 延一** (S30年卒57期)

元気に歩いています。当日は横浜ツデーマーチの第一目で申込済みのため、欠席します。いつまで歩けるかわかりませんが、「歩かなければ、歩けなくなる」との信念のもと毎朝歩いています。

●**越智 馨** (S31年卒58期)

出席出来ず残念です。御盛会お祈りしています。

●**佐藤 元** (S31年卒58期)

ご盛会を祈念致します。

●**能戸 仟** (S31年卒58期)

貴会の益々の発展を祈念しております。

●**広田 洋吉** (S31年卒58期)

体調不全のため出席できず残念です。当日の盛会を祈念します。

●**松下 俊一** (S31年卒58期)

毎年ご案内を頂き有難う存じます。現役時代の係り事で関西地区の同窓会へは出席致して居ります。いづれ機会があれば東京へもと思っております。ご盛会を祈ります。

●**及川 守** (S32年卒59期)

来年の同期会には出席したく考えています。

●黒澤 明 (S 32年卒 59期)
同窓会関係各位の皆さまの御努力に心から感謝申し上げます。今後の御発展を心よりお祈り申し上げます。

●伊藤 光司 (S 32年卒 59期)
「白楊だより」いつもありがとうございます。相変わらず足腰調子悪く親睦大会には出席できませんが、36号表紙の駒ヶ岳の写真を見、元気があった頃が思い出されました。親睦大会の盛會を祈念しております。

●飯田 幸平 (S 33年卒 60期)
カラー版の会報ありがとうございます。益々の発展を祈念しています。

●佐々木孝吉 (S 33年卒 60期)
いつも幹事さんたちにはご苦労をおかけしています。私はまだ仕事をしていますのでなかなか同窓会には出席できませんが、函中の仲間はいつも誇りに思っております。

●正津 慎男 (S 34年卒 61期)
今年の5月、横浜市に転居しました。元気に過ごしています。

●鎌形 寛子 (S 35年卒 62期)
白楊だより楽しく拝見させていただいております。全面カラー化により一層見易くなり喜んでおります。

●萩原 悦子 (S 36年卒 63期)
7月に札幌支部同期会に出席しました。盛況でした。

●佐藤 建 (S 36年卒 63期)
この春より団地組合の理事長となりました。第2土曜日は理事会となっております。身動きが出来ません。的場合も重なっており、両方とも出席出来ません。皆様に宜しく。

●谷澤 洋子 (S 36年卒 63期)
元気にしております。でも疲れやすくなりましたね。

●浜岡 興一郎 (S 36年卒 63期)
今年も放課後子ども教室に2校5日勤務しています。

●片岡 洋子 (S 37年卒 64期)
いつもお世話になっておりました。ありがとうございます。元気でおります。

●渡辺千穂子 (S 38年卒 65期)
御世話様です。それなりに元気です。

●上原 勝雄 (S 39年卒 66期)
会報はフルカラーになって一段と見やすくなりました。いつもありがとうございます。

●中川 真 (S 40年卒 67期)
今回の東京白楊だよりは、カラーがとてきれいです。特に吉岡直道氏の表紙の写真「駒ヶ岳と大沼かな？」と列車がすばらしいです。額に入れてかざります。

●新谷 真秀 (S 40年卒 67期)
「東京白楊だより」拝見しました。これだけの記事と写真の編集、大変ですね。表紙の写真は特に懐かし、撮影者の吉岡君、流石ですね。安田支部長、もう一期と言わず支部のため体の続く限りお力添えをお願いします。年会費の減少の件は、私も他の会に携わっているので良くわかりますが、妙案はなかなか見つからず苦労しています。会の益々のご発展を祈ります。

●田中 恵子 (S 41年卒 68期)
36号会報の大沼公園の秋景色、素晴らしいですね！10月初旬〜中旬くらいでしょうか？我家は毎年この時季、乗馬で駒ヶ岳山麓の紅葉を楽しんでおります。今年も10月10日〜14日の予定で、見事に同窓会とハッティングしてしまいました。大沼の秋を楽しんで来ます！

●吉野 和子 (S 41年卒 68期)
東京白楊だより、いつも懐かしく拝読させて頂いております。全ページフルカラー印刷で、とても見やすく、表紙の写真はとても素敵ですね。ありがとうございます。

●高橋 弘昭 (S 41年卒 68期)
先日恩師であり、大学の先輩でもある丸山祐三郎先生(新潟市在住)から、近隣で被害があった童巻を心配して頂き、お見舞いの電話をもらいました。卒業して50年近くなるのに、多くの教え子を送り出されている先生が、その中の一人を覚えていてくれ心配をしてくれた事、感謝と感激に涙しました。函中に入學できて本当によかったと思いましたが、お役目の程御苦労様です。皆様の御健勝を祈念致しております。

●奥野 政博 (S 42年卒 69期)
会報のカラー化、読み易くなりました。親睦大会の式次第(プログラム)や終了時刻も案内して頂ければ…:~:と思います。

●越中 陽子 (S 41年卒 68期)
あれから50年。同窓会の出席者に名前が付記されていても顔がよくわからない…。

●岩切 省三 (S 42年卒 69期)
お役目の程御苦労様です。皆様の御健勝を祈念致しております。

●板垣 裕則 (S 43年卒 70期)
生活習慣病進行中。やんぬるかな、やんぬるかな!!

●佐藤 和明 (S 43年卒 70期)
元気で毎日仕事に、ボランティアにと頑張っています。

●川村 哲雄 (S 44年卒 71期)
平成25年度の同期会を6月15日(土)若杉継道君(10組)の奥様の実家である葛飾柴又「高木屋」に集合。柴又帝釈天「参詣後は「高木屋」で団子を食べて休憩。同じ参道に面している創業300年を超える鱈懐石「川千家」に移動集合して、午後5時より総勢26名で開催しました。午後7時過ぎ、体調の悪い若杉君の見送りを受け、25名が柴又駅から押上駅まで移動。東京スカイツリーから360度の東京大パノラマ夜景を満喫した同期会でした。

●久保 純一 (S 44年卒 71期)
卒業生の皆様の御健勝と函館中部高校の益々の発展をお祈りしています。

●柳田美知子 (S 44年卒 71期)
いつも会報を楽しみに読ませていただいております。

●五十嵐 力 (S 47年卒 74期)
会報は毎回興味深く読ませていただいております。何年か前の洞爺丸の記事は大変貴重な「論文」と思っています。再掲されてはいかがでしょうか？

●阿部 明夫 (S 48年卒 75期)
函館の街がきれいに整備されて気持ちよくなり、みなさまのお陰と思っています。

●小原 泰次 (S 48年卒 75期)
今回は家族旅行の為、残念ながら欠席させていただきます。

●久米 教子 (S 48年卒 75期)
いつも大変お世話様になっております。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

●桑原 洋子 (S 48年卒 75期)
来年度より、ここで人生一区切り、掃除を始めましたが、思い出が多すぎてなかなか前に進めません。カラーページでも見やすいですね。皆様の頑張り、頭が下がる思いです。

●高田 博行 (S 48年卒 75期)
残念ですが、仕事の都合で欠席させていただきます。盛會をお祈り致します。会報いつもたのしみに拝見して居ります。

●山内 優子 (S 52年卒 79期)
今年度より入会させていただきます。よろしくお願ひします。

●常陸 千尋 (S 54年卒 81期)
今年度は函館での同窓会の翌日、50人も同期が函館花びしホテルに集まりました。一昨年の東京同窓会の幹事を仰せつかつて一同に協力して無事終了後、各地で年数回の同期会を重ねてきたお陰で、東京や札幌からと遠方からも多数参加し盛り上がりました。

●森野 光代 (S 54年卒 81期)
父の故郷、粟田村へ行ってきました。初めてなのにお迎えされました。石垣島より穏やかです。

●平井 文三 (S 59年卒 86期)
亜細亜大学法学部教員になりました。函中生、御子息に受験を勧めました。ければ幸いです。

●末永 健 (S 60年卒 87期)
87期会でフェイスブックのグループを作りました。函館、札幌、東京を中心に同期会をちよくちよく開催しています。

●山本 晃平 (H 18年卒 108期)
2014年より都内で働くことになりましたので、東京、関東在住の方は、今後ともよろしくお願ひ致します。

●長尾麻里菜 (H 19年卒 109期)
連続の欠席申し訳ありません。仕事の都合がつけられないため参加できませんが、皆様で楽しい会が迎えられるようお祈り申し上げます。

●佐藤 一樹 (H 20年卒 110期)
昨年は大学を卒業し、新社会人として日々を忙殺されておりました故、参加を見送らせて頂きました。誠に残念ではありますが、今年も繁忙期と重なり、会へ足を運べないことを残念に思います。皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

●伊藤 実穂 (H 23年卒 113期)
現在大学3年生で就職活動を目前に控えております。是非、諸先輩方にアドバイスを頂きたいと思っております。

●中川 倅成 (H 24年卒 114期)
現在、慶応義塾大学総合政策学部所属し、政策の研究を行っております。国家公務員試験の勉強中です。会の益々のご発展を願っております。

●中川 倅成 (H 24年卒 114期)
現在、慶応義塾大学総合政策学部所属し、政策の研究を行っております。国家公務員試験の勉強中です。会の益々のご発展を願っております。

●中川 倅成 (H 24年卒 114期)
現在、慶応義塾大学総合政策学部所属し、政策の研究を行っております。国家公務員試験の勉強中です。会の益々のご発展を願っております。

●中川 倅成 (H 24年卒 114期)
現在、慶応義塾大学総合政策学部所属し、政策の研究を行っております。国家公務員試験の勉強中です。会の益々のご発展を願っております。

●中川 倅成 (H 24年卒 114期)
現在、慶応義塾大学総合政策学部所属し、政策の研究を行っております。国家公務員試験の勉強中です。会の益々のご発展を願っております。

平成25年度収支実績および
平成26年度予算(単位:円)

	25年度実績	26年度予算	
収入	年会費収入	1,767,000	1,900,000
	大会費収入	1,208,000	1,450,000
	寄付金収入	265,000	250,000
	会報広告収入	85,000	100,000
	その他	212	0
	合計	3,325,212	3,700,000
支出	大会関連費用	1,444,036	1,750,000
	会報関連費用	727,649	810,000
	諸会議費	220,405	260,000
	本部派遣費	194,071	220,000
	通信運搬費	180,322	200,000
	その他の運営費	350,892	440,000
	予備費		20,000
	合計	3,117,375	3,700,000
差引収支残	207,837	0	
次期繰越剰余金	5,218,134	5,218,134	

日時;平成26年4月22日(火)18:30~19:30

場所;インテリジェントロビー・ルコ D2会議室

新宿区揚場町2-1 軽子坂MNVビル

出席者 24名

安田支部長の挨拶に続き、以下の議案について審議し、全議案とも承認された。

(1)平成25年度事業報告

親睦大会、東京白楊だより、ホームページ、渉外活動、総務等

親睦大会は、83期の企画により「旧交を温め、楽しい時間を!!」をテーマに実施され、170名が参加。

(2)平成25年度収支決算報告

昨年度に続き年会費納入者が600名を割込み589名であったが、会報印刷費、会報発送方法の変更、会合会議費の大幅な低減により、差引収支残は207,837円の黒字となった。

(3)平成26年度事業計画案

親睦大会、東京白楊だより、ホームページ、渉外活動、同好会活動等

今年度親睦大会は84期が幹事となり、グランドアーク半蔵門を会場に「函館つながり」のテーマで企画検討中。

(4)平成26年度収支予算案

昨年度の実績を参考に、収入・支出額がそれぞれ昨年度予算並みの370万円の均衡予算とする。

(5)役員の選任及び異動の件

田口氏(83期)が理事に選任され、福津氏(52期)と桜氏(79期)が退任された。

引続き、同会場において会費制で懇親会を実施した。

村田秀樹(72期)記

ご寄付御礼

昨年度は21名の方からご寄付を頂戴いたしました。ここにお名前を掲載し、御礼に代えさせていただきます。(敬称略 アイウエオ順)

昭13年卒 40期 柿田清 (H22/10/10逝去 ご子息より)

昭20年卒 47期 桜井政夫/堀田善和

誠に残念なことに、年会費の納入者数が年々減少しており、当支部の財政は、未だにひ弱な状態です。本年も引き続き皆様からのご寄付を募っております。お志のある方はご協力をお願い申し上げます。

昭14年卒 41期 毛利啓次

昭25年卒 52期 井上稔/長嶋康

昭15年卒 42期 神山茂郎

昭26年卒 53期 新谷義克

昭17年卒 44期 渡辺紘一

昭36年卒 63期 土橋道子

昭18年卒 45期 川田陽吉/田沼修二

昭37年卒 64期 佐々次郎

/室田穎一郎

昭40年卒 67期 小川健二 (H25/2/3逝去 奥様より)

昭19年卒 46期 岩沢弥之助/多和田昭二

昭42年卒 69期 佐藤一廣/斉藤裕子

/渡辺保二

昭51年卒 78期 島津路郎 (ヒア/謝礼)

取り扱い金融機関:郵便局

口座番号:00190-1-124291

白楊ヶ丘同窓会東京支部

郵便局備え付けの用紙、または会報に同封の
払込票をご利用ください。

84期の皆さん、半蔵門に全員集合ですよ!

懐かしい面々に32年ぶりに再会しませんか?

今回は特別企画として、函館より青田基さん、小葉松洋子さんをお招きして、講演会を開催します

とき:11月8日(土)12時~15時

ところ:ホテル グランドアーク半蔵門(国立劇場隣り)



白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第38回親睦大会のご案内

テーマは… 「函館つながり」

とき 2014年11月8日(土) 12:00開演(11:30受付開始)

ところ グランドアーク半蔵門 **参加費** 8000円 学生無料 (ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

講演会 「函館で活躍する84期」青田基・小葉松洋子氏 12:00～12:40 **懇親会** 13:00～15:00 終了



グランドアーク半蔵門 ご案内

〒102-0092東京都千代田区隼町1番1号 tel.03-3288-1628

ACCESS

- ・東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」1番出口より徒歩2分
- ・東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」3b出口より徒歩3分
- ※3b出口はエスカレーター部分が1番出口より長く、荷物がある場合に便利です(節電の為閉鎖されていましたが、11月より通行可能となりました。)
- ・東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」駅エレベーターより徒歩7分
- ・東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩7分
- ・JR「四ツ谷駅」より徒歩15分
- ・東京駅(丸の内南口タクシー乗り場)よりタクシーにて約10分

詳しくは… <http://www.grandarc.com/>

発行人

白楊ヶ丘同窓会東京支部
安田康次(67期)

編集責任者

山田朗(73期)
平成26年9月1日

東京事務所

〒338-002 さいたま市中央区大戸2-19-10
安田康次方 048-852-0988

紙面デザイン：ミライデザイン/イシバシキ

白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様、お待たせいたしました。今年の親睦大会は昨年同様、皇居の杜を望めるホテル、グランドアーク半蔵門にて開催いたします。今年は、昨年2名しか出席していなかった84期生(昭和57年卒)が、不慣れではありますが幹事を務めさせていただきます。

私ども84期は、ごんまりと集うことはあったものの、誰かが声掛けして在京メンバーで同期会を開くことなどはありませんでした。評議員も、会報を郵送するだけでした。しかし、83期の方々からバトンを渡されたことをきっかけに、同期に声掛けを始め、昨年12月以降これまで、幾度か集まりを繰り返し、徐々にメンバーの輪が広がってきております。

当初は何から手を付けたら良いのか戸惑いながらも、東京支部理事会の方々からのご指南、83期の幹事の方からの詳細かつ貴重なアドバイス、そして同期のメンバーたちの様々なアイデアや協力を得て、今着々と準備が整いつつあります。

今年のテーマは「函館つながり」です。仕事、地域、子供の学校、趣味など世間とのつながりはさまざまです。その中に「私は道産子で」「あら私も」と同郷の人を見つけると、ちよつぱりうれしかったりしませんか？ 当日同窓会に集まるのは、もれなく函館関係者の隣の席の先輩が案外ご近所だったり、さつきぶつかった彼女が同じビルで働いていたりするかもしれません。根っこはみんな函館つながり。故郷のネタをとっかかりに世間話をしてみませんか？

ぜひお誘いあわせの上11月8日に半蔵門へお越しください。お待ちしております。

(84期評議員及び同窓会スタッフ一同)

編集後記

第30号より去年までの7年間に渡り編集を担当してきましたが、お陰様でこの37号からは目出度く世代交代を果たせ、嬉しい限りです。編集者が若返り紙面刷新を遂げました。飛躍・躍進する「東京白楊だより」を愛読くださいますよう、よろしくお願いたします。(梅田やよい 69期)

函館へ帰省して、久しぶりに函館山に登りました。母と一緒に。母も函館で生まれ育っています。登山の間に話した母の記憶の函館。10年一昔とよく言いまわりますが、町並みも私が暮らしていた頃から見ても変わりました。故郷の函館に何か恩返ししたいと心新たに。帰省でもありました。この会報を読んでくださっている皆様と何か生み出すことが出来ればとも思っております。(朝緑高太 99期)

完全カラー化の後、紙面構成をより魅力的なものにと努力しています。今年限りで梅田さんが編集から退く事になりましたが、長年ご指導有難うございました。来年は若手朝緑さんと老手?と二人三脚となります。限られた紙面だけに四面楚歌にならないよう会員皆様からの投稿を期待しています。(山田朗 73期)

表紙写真

地域交流まちづくりセンター
(旧丸井今井呉服店・大正12年1923創建)
2007年4月1日より、市民活動の支援や市民の交流の場、地域情報の発信拠点として再び利用されることになりました。

写真提供 67期 吉岡直道氏

(函館在住・吉岡写真館)